

エコアクション 21 環境活動レポート

対象期間：令和2年4月～令和3年3月

発行年月：令和3年5月



川根本町

～ 目 次 ～

基本理念	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
行動方針	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P3
1 川根本町の概況	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P4
2 環境経営目標	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P11
3 エコアクション21に基づく町役場の取り組み	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P18
4 令和2年度の活動の内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P41
5 町が実施する町民向け補助事業	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P44
6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	・・・・・・・・・・・・・・・・	P46
7 代表者による全体評価と見直しの結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	P48

近年、地球温暖化をはじめとして、経済活動が地球の環境に与える影響の大きさが広く認識されるようになりました。自然界における環境は大気・水・土壌・生物等の間を物質が循環し、生態系が微妙な均衡を保つことによって成り立っています。私たちを取り巻く環境問題は、健全な物質の循環が阻害され、資源やエネルギーを大量に消費する現代社会のあり方そのものに根ざしています。このため、現在の社会経済の構造、私たちの生活様式と価値観を環境の視点からも変革していくことが求められています。

一方、私たちの町は、古くから豊かな自然の恵みを享受し、自然を持続的に利用する知恵と技、自然を慈しむ文化を育んできました。それが自然共生型の生活様式をつくりあげ、ユネスコエコパークの認証へと繋がり、広く認知されるようになったものと思います。今後もこの自然を守り育むとともに、これまで培ってきた知恵を活かし、環境負荷を抑えた方法でその活用を図り、自然共生型の暮らし方、物づくりや連携・交流のあり方を提案・発信していくことが「川根本町」の使命と考えています。

こうした認識の下で、環境への負荷を抑える取り組みを組織的に行う取り組みとして、川根本町役場は、「エコアクション21」に取り組んでまいりました。職員が自分の仕事を通じて、環境との関わりに気づき、環境負荷を減らすため、目標を設定し、計画的に取り組む、結果を評価し、見直し実行する、PCDAサイクルに則った持続的な取り組みを実践してまいります。この取り組みを通じて、環境への取組の推進だけでなく、経費の節減など行財政改革の推進、住民の生活満足度の向上、自治体としての法令順守など、まちづくりにおける行政サービスの品質や信頼性の向上を目指します。

川根本町のキャッチフレーズ、「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町」～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～の実現には、これからも自然共生型の社会活動が欠かせません。そのために、エコアクション21の取り組みが、その「手段」であり、川根本町がこれまで培ったノウハウを活かすことが求められます。役場の組織だけでなく、町全体で目的を共有しながら、名実ともに豊かなまちづくりに取り組むことが重要と考えます。

行 動 方 針

- ①役場の職員は、「水と森の番人」という川根本町の使命を自覚し、環境負荷の低減に配慮した業務を執行します。住民の生活満足度の向上を図るため、広く町民にも啓発・広報・事業活動を持続、推進します。
- ②リサイクルやグリーン調達を積極的に行い、公共工事やイベントなどの事業における環境負荷抑制に努めます。
- ③業務における省資源・省エネルギーを実践し、電気・石油・水・紙の使用量を減ずることに努めます。
- ④環境関連の法令及びその他の要求事項を遵守し、自然共生型社会の実現に取り組みます。
- ⑤川根本町環境基本計画を制定して、環境にやさしい社会を実現するための施策を推進します。
- ⑥環境経営目標、環境経営活動計画を定め、かつそれを定期的に見直すことにより継続的な環境改善に努めます。
- ⑦この環境経営方針は、全職員に周知させ、町民にも公開します。

平成19年7月27日 制定

平成20年3月10日 改定

令和3年4月1日

改定

川根本町長 鈴木 敏夫

1 川根本町の概況

1 位置・地勢

本町は、静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接し、北は長野県の県境となっています。

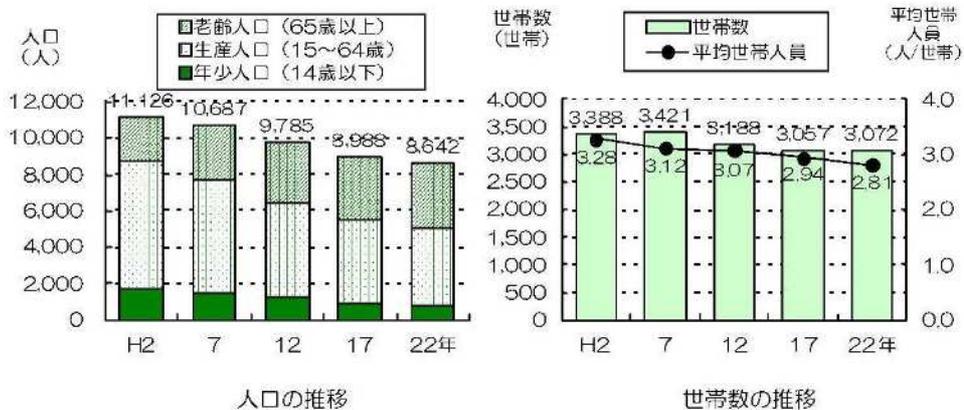
町域は大井川に沿った東西約 23km、南北約 40km の細長い形で、面積は 496.72 km²(県全体の約 6.4%)、このうち約 94% を山林が占めております。



2 人口・世帯

令和 3 年 4 月 1 日現在の人口は 6,412 人、世帯数は 2,826 世帯、平均世帯人員は 2.27 人/世帯で、人口及び平均世帯人員は年々減少傾向にあります。住民基本台帳（外国人を含まない）によると、年齢階層別人口は年少者が 6.1%、生産人口が 37.6%、高齢人口が 56.3%で、年々高齢化が進んでおり、高齢化率 49.5%（高齢人口）は県内で最も高くなっています。

「第 2 期川根本町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の推計によれば、今後も人口の減少は続き、令和 12 年には人口は 5,241 人まで減少し、さらに高齢化が進むと予想されています。

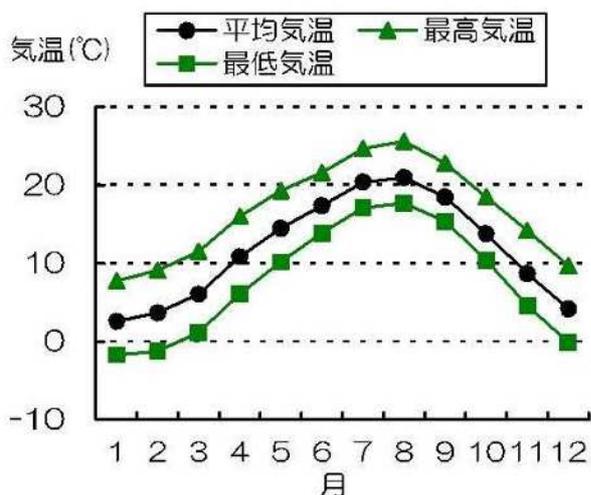


注 1) H2~17 は国勢調査報告（外国人を含む）のデータを使用。
注 2) 平成 22 年は 1 月 1 日現在のデータ。ただし、年齢別人口（年少人口、生産人口、高齢人口）のみ住民基本台帳（外国人を含まない）のデータを使用。

【資料:国勢調査報告、川根本町ホームページ】

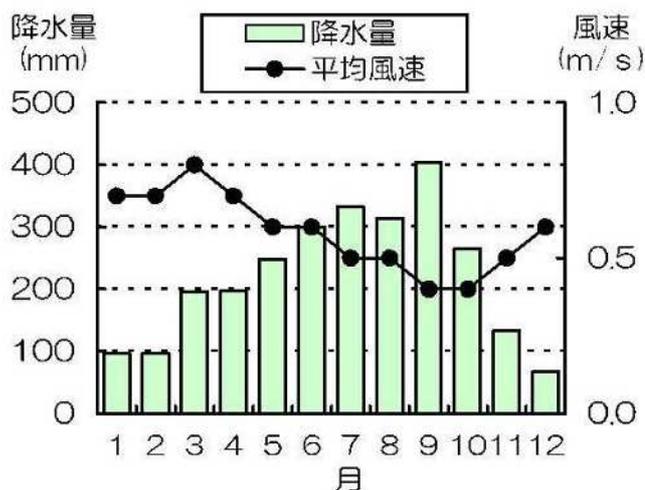
3 気象

本町は太平洋岸気候に属し、夏は太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北寄りの季節風の影響により、空気は乾燥して少雨となります。最近 10 年間の平均気温は、11.8℃で、気温年較差や日較差が大きい地域です。年間降水量は 3,000 mmで梅雨（6月）から台風（10月）の時期が多くなっています。10年間の平均風速は0.6m/sと比較的弱く、冬季に風が強くなります。また、冬季は降雪は少ないものの、氷点下になることが多くなります。



月別の気温（平成 10～19年）
注）測定地は川根本町(アメダス地点)。

【資料：気象庁ホームページ】



月別の降水量と風速（平成 10～19年）
注）測定地は川根本町(アメダス地点)。

【資料：気象庁ホームページ】

気象概要（月別）

月	平成 10~19年				
	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	平均風速(m/s)
1月	2.6	7.8	-1.7	96.6	0.7
2月	3.7	9.1	-1.2	96.3	0.7
3月	6.1	11.5	1.2	196.4	0.8
4月	10.9	16.0	6.1	196.5	0.7
5月	14.5	19.3	10.2	248.0	0.6
6月	17.4	21.6	13.9	299.7	0.6
7月	20.4	24.7	17.1	332.5	0.5
8月	21.0	25.6	17.7	313.8	0.5
9月	18.5	22.8	15.4	403.6	0.4
10月	13.8	18.5	10.4	265.4	0.4
11月	8.7	14.2	4.6	132.8	0.5
12月	4.2	9.7	-0.1	66.6	0.6
年間	11.8	16.7	7.8	2,648.1	0.6

注）測定地は川根本町(アメダス地点)。

【資料：気象庁ホームページ】

4 土地利用

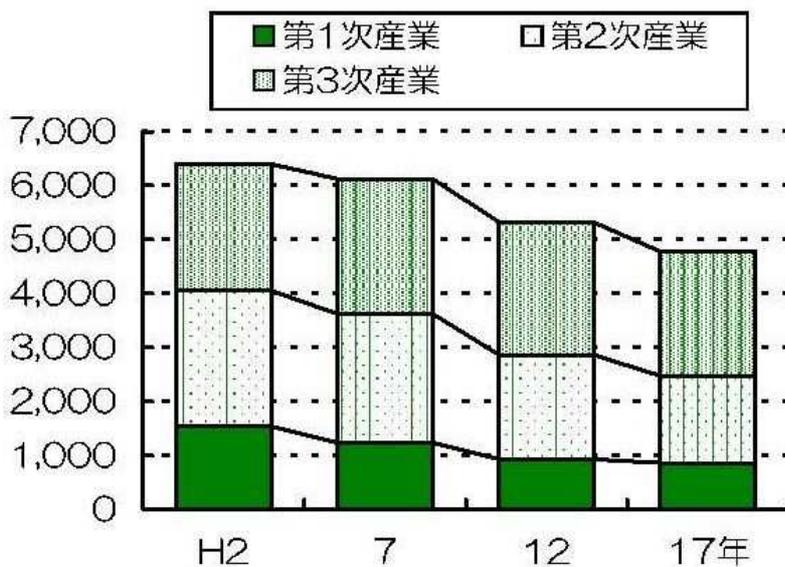
平成 19 年度の土地利用区分別面積をみると、森林（93.8%）が最も多く、農用地や宅地などはいずれも 1%前後とわずかです。



土地利用区分別面積（平成 19 年）
【資料：国土利用計画（川根本町計画）参考資料】

5 産業

平成 17 年度の産業別就業人口は 4,777 人で総人口の 55%を占めています。産業別では第 1 次産業が 860 人（18.0%）、第 2 次産業が 1,617 人（33.8%）、第 3 次産業が 2,300 人（48.1%）となっており、第 1 次産業の占める割合が比較的高いことが特徴です。産業別就業人口の推移は第 1 次産業及び第 2 次産業が減少し、第 3 次産業がほぼ横ばいの傾向が見られます。



産業別就業人口（15 歳以上）の推移
【資料：国勢調査報告】

6 町の代表者・環境管理責任者

代表者

町長 すすき としお
鈴木 敏夫

責任者

副町長 もり きよし
森 紀代志

7 環境担当課

川根本町くらし環境課環境政策室

電話 0547-56-2236 FAX 0547-56-1117

E-mail kurashi-kankyo@town.kawanehon.lg.jp

ホームページ <http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp>

8 事業活動の内容

一般行政事務、保育、簡易水道事業などの町民の日常生活に密接に関係する行政サービスの提供。

9 事業の規模

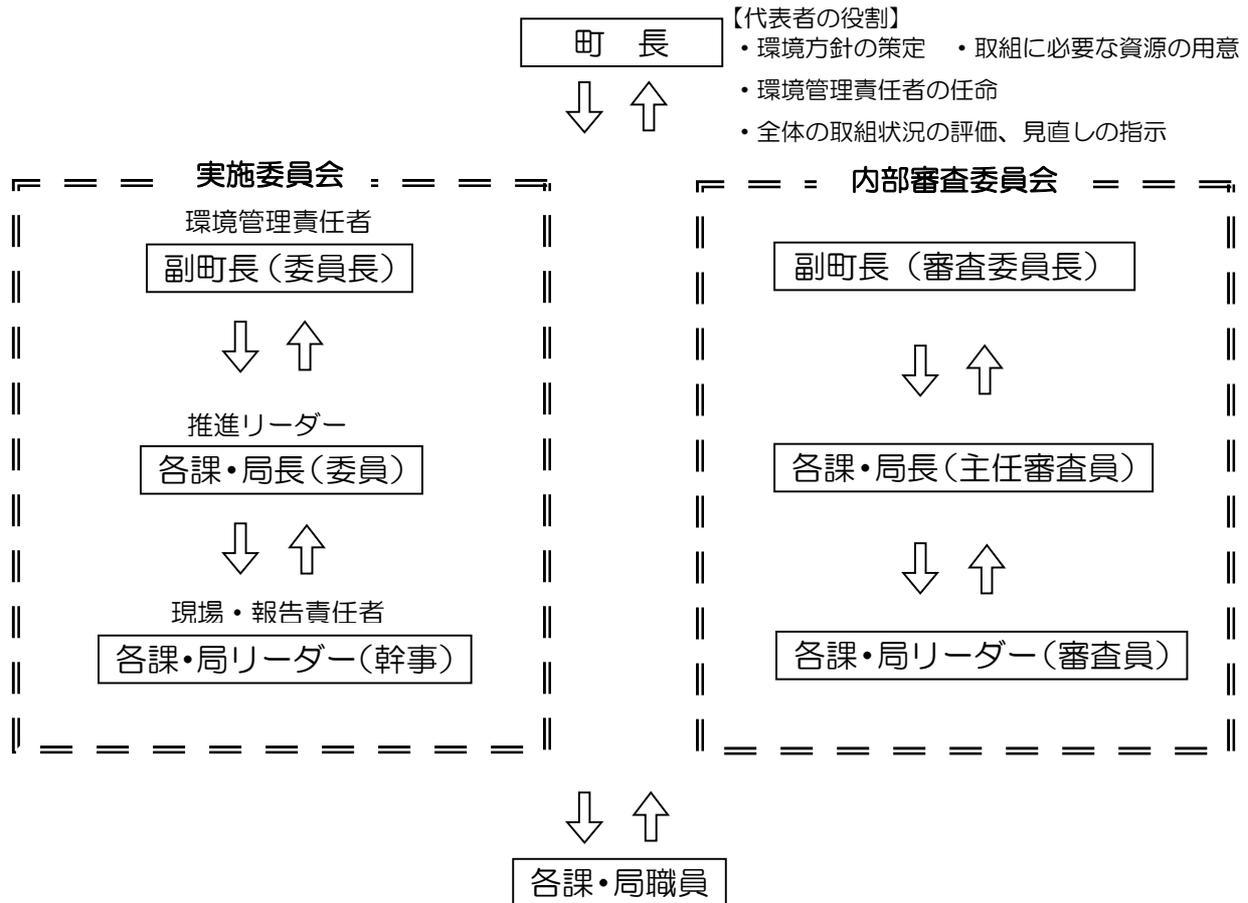
令和2年度一般会計当初予算 56億1,300万円

職員数（令和3年4月1日現在） 246名（嘱託・会計年度任用職員を含む）

10 エコアクション21 認証取得の範囲

区分	課・局名	室・施設名
本庁舎	総務課	財務管理室、行政庶務室、自治防災室、山村開発センター、健康増進施設
	企画課	企画調整室、まちづくり推進室、お試し住宅
	情報政策課	情報政策室
	農林課	農業振興室、林業振興室、フォーシなかわね茶茗館、農林業センター
	建設課	建設事業室、排水機場（千頭、田代、桑野山） 外灯（ふれあい橋、中徳橋、千頭田代線、接岨トンネル）
	高齢者福祉課	長寿介護室、地域包括ケア推進室
	健康福祉課	健康づくり室、子ども支援室、地域福祉室、いやしの里診療所
	税務住民課	税務室、戸籍住民室
	会計課	
	くらし環境課	環境政策室、生活環境室、クリーンピュア川根本町、温泉スタンド、EVスタンド
総合支所	議会事務局	
	教育総務課	教育総務室、教育推進室、学校給食共同調理場
	社会教育課	社会教育室、文化会館、本川根B&G海洋センター、資料館やまびこ
	観光商工課	観光振興室、商工交流室
	支所管理局	支所管理室、窓口業務室
消防署	総務課	静岡市消防局島田消防署川根北出張所
水道施設	くらし環境課	南部簡易水道施設、北部簡易水道施設
斎場	くらし環境課	中川根斎場、本川根斎場
塵芥施設	くらし環境課	中川根ゴミ処理場、環境美化センター
保育園	健康福祉課	三ツ星保育園、桜保育園、子育て支援施設ひだまり、子育て支援施設こもれび
小中学校	教育総務課	中川根中学校、本川根中学校、中央小学校、中川根南部小学校、第一小学校、本川根小学校
福祉施設	高齢者福祉課	福祉センター、憩の家いずみ、中川根デイサービスセンター、生きがいの郷 みどりの丘えまつ、瀬平高齢者デイサービスセンター（まんてん）
キャンプ場	観光商工課	池の谷ファミリーキャンプ場、くのわき親水公園キャンプ場、八木キャンプ場、三ツ星オートキャン プ場、不動の滝自然広場オートキャンプ場、アプトいちしろキャンプ場
温泉施設	観光商工課	接岨峡温泉会館、白沢温泉もりのいずみ、寸又峡温泉美女づくりの湯
宿泊施設	観光商工課	ウッドハウスおろくぼ、もりのコテージ
公衆トイレ	観光商工課	千頭駅前トイレ、四季の里トイレ、奥泉駅前トイレ
その他観光施設	観光商工課	なかわね三ツ星天文台、長島ダムふれあい館

11 環境マネジメントシステム実施体制



実施体制における役割

【実施委員会】

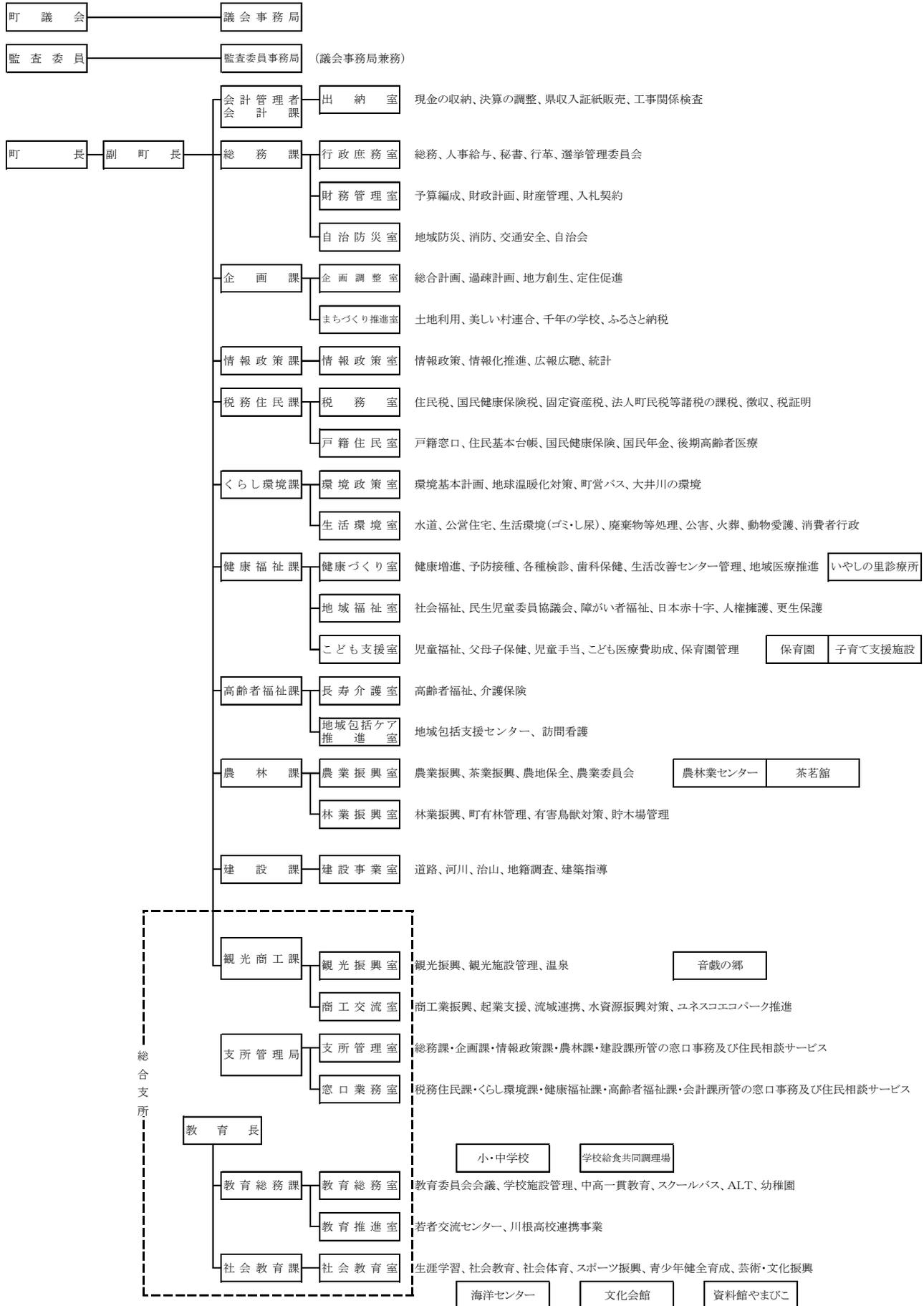
- 委員長（副町長）
 - ・実施委員会の統括
- 委員（各課・局長）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動の統括
- 幹事（各課・局リーダー）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動のリーダー的業務
 - ・各課・局における温室効果ガス等排出状況の報告及び検証

【内部審査委員会】

- 委員長（副町長）
 - ・内部環境審査の計画及び実施の指示と統括
 - ・町長への内部環境審査の結果報告とシステム改善のための助言
 - ・エコアクションガイドライン不適合事項への再発防止策について要求
- 主任審査員（各課・局長）
 - ・実施計画に基づく内部審査の実施
 - ・審査報告書及び審査統括報告書の作成
 - ・被審査部門に対するシステム改善のための提案
- 審査員（各課・局リーダー）
 - ・主任審査員の補助

12 役場組織図 (令和2年4月1日現在)

令和2年度 行政組織図 (令和2年4月1日施行)



13 施設の概要

【庁舎ほか】

施設名	所在地	備考
本庁舎	川根本町上長尾627	
総合支所	川根本町千頭1183-1	
山村開発センター	川根本町上長尾627	健康増進施設
文化会館	川根本町東藤川909-1	
本川根B&G海洋センター	川根本町東藤川1220	
学校給食共同調理場	川根本町青部18	

【保育園 他】

園名	所在地	備考
三ツ星保育園	川根本町上長尾570-1	
桜保育園	川根本町東藤川915	
子育て支援施設ひだまり	川根本町元藤川201-1	
子育て支援施設こもれび	川根本町地名637-1	

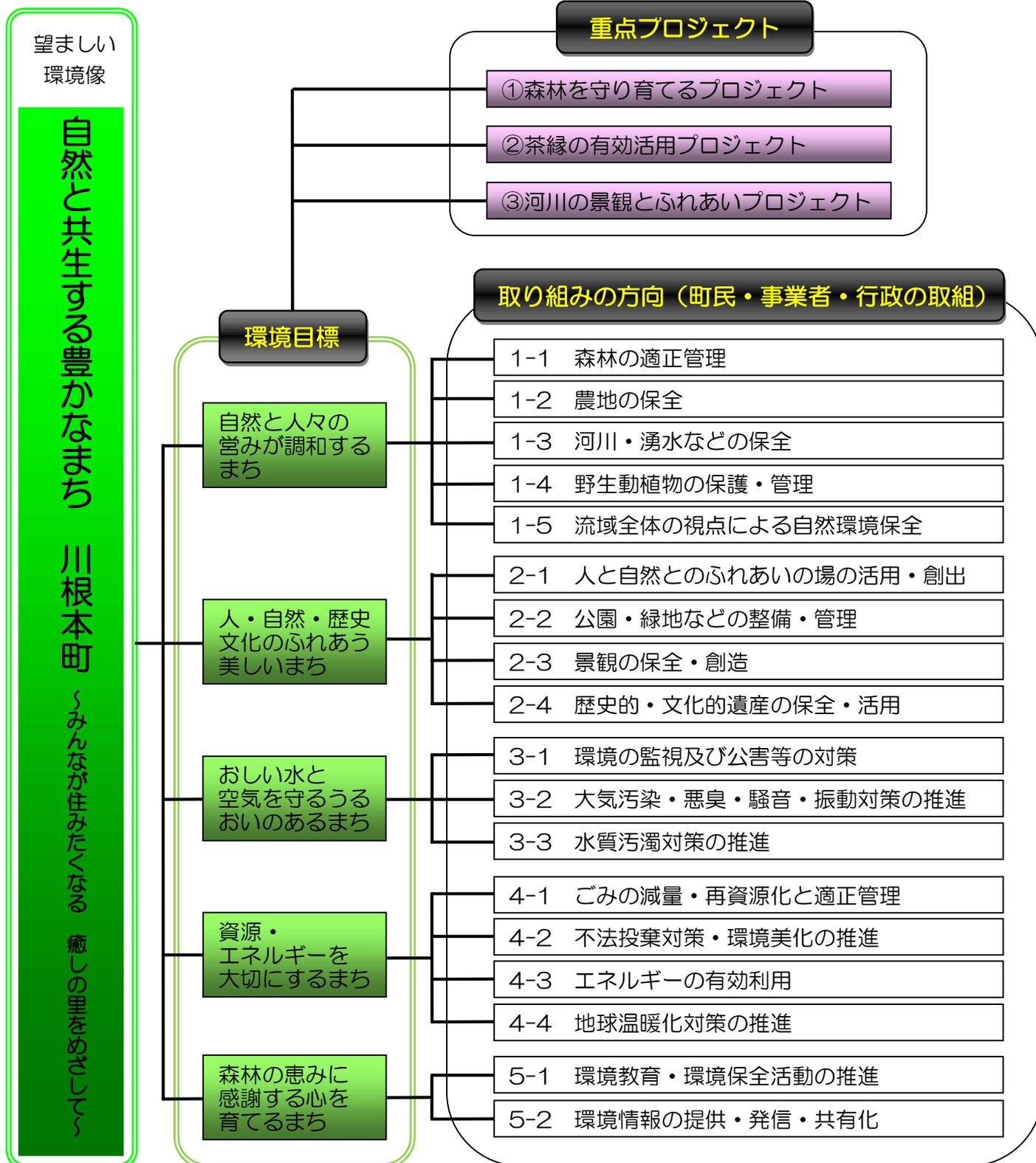
【小中学校】

学校名	所在地	備考
中川根中学校	川根本町上長尾744	
本川根中学校	川根本町田代530	
中央小学校	川根本町上長尾1000	
中川根南部小学校	川根本町下長尾281	
中川根第一小学校	川根本町徳山100	
本川根小学校	川根本町千頭1236-6	

2 環境経営目標

川根本町環境基本計画に定める環境経営目標

川根本町環境基本計画は、町の美しい景観や清らかな大井川、特産物である川根茶の香る茶畑や豊かな森林を守るため、地域をはじめ町全体、さらには地球規模で抱える問題へ対処するため、町民・事業者・行政の三者が連携・協力して環境保全に向けた取り組みを実行するための、総合的かつ長期的な施策の大綱です。



1-1 森林の適正管理

●現状と課題

- 本町には広大な森林がありますが、近年は林家数が減少し、担い手不足や林業労務者の高齢化が進んでいます。また、木材の価格低迷や間伐材の有効利用など、多くの課題があります。
- アンケート結果によると、「森林の保全」などの環境施策や「持続可能な農林水産業の振興」について町民の期待が大きくなっています。
- 国有林の管理が行き届いていない場所があるため、国へ働き掛けていく必要があります。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
FSC森林認証森林面積	1,593ha	H27	2,500ha	R1	農林課
間伐事業実施面積	130ha/年	H26	500ha/年	R1	農林課
森林施業計画認定面積	1,879ha	H27	3,900ha	R1	農林課
林道総延長	215,726m	H26	253,101m	R1	農林課

1-2 農地の保全

●現状と課題

- 農家数や耕地面積は年々減少し、農業従事者の高齢化や担い手不足などに伴って、遊休農地が増加傾向にあります。特に本町の基幹産業である茶園の遊休農地が拡大しており、大きな課題となっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
認定農家への農地集積面積	86ha	H26	100ha	R1	農林課
調査による遊休農地認定面積	50ha	H26	40ha	R1	農林課
耕作放棄地再生利用面積	119a	H26	200a	R1	農林課
中山間地域等直接支払事業交付農用地面積	5,473a	H26	5,500a	R1	農林課
利用券設定面積	687a	H26	500a	R1	農林課
法人農業経営創設件数	3社	H26	5社	R1	農林課
青年就農給付金交付者数	0人	H26	5人	R1	農林課

1-3 河川・湧水などの保全

●現状と課題

- 町内を流れる大井川は、峡谷、河岸段丘などの特徴的な地形が数多く見られます。
- 「にほんの里 100 選」「水の郷百選」「静岡県のみずべ 100 選」に選定されるなど、良好な河川環境が残っています。
- 大井川ではかつて、町民生活と密接な関わりがありましたが、ダム建設や交通網の整備、ライフスタイルの変化により、現在ではその関わりが薄らいでいます。
- ダムの設置により、水の濁りや河川流量の減少、河床の上昇、ダム湖への堆積土砂などが大きな問題となっています。関係機関との連携を図りながら、昔のような大井川の環境に近づけ、大井川と人との関わりを深めていけるような取り組みの展開が必要です。

- 上水道の普及により、湧水の存在は薄いものになりつつありますが、貴重な水資源として保全していくことが必要です。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
河川清掃参加人数	1,704人/年	H26	1,700人/年	R1	建設課
河川愛護活動実施回数	27日/年	H26	27日/年	R1	建設課
河川愛護活動実施団体数	27団体	H26	27団体	R1	建設課
大井川の濁水の苦情件数	0件/年	H27	0件/年	R1	くらし環境課
水道普及率	99.7%	H26	99.7%	H29	くらし環境課

1-4 野生動植物の保護・管理

●現状と課題

- 低地帯から高山帯の多様な植生や、大井川源流部の厳正自然環境保全地域、貴重な植生や植物群落、巨樹などの保全が必要です。
- 町内では4,134種の動植物が確認され、絶滅の可能性のある動植物として201種が該当します。動植物の生育・生息や絶滅の可能性のある種について情報収集するなど、生物多様性の確保や保全に向けた対策の検討が必要です。
- 特定外来生物に指定されている動植物が確認されており、地域固有の生態系を保全していくためには、外来生物への対策が求められます。
- シカ、カモシカ、サル、イノシシなどによる農作物などへの被害が増加しています。地域生態系のバランスを考慮しながら野生動物と人間との共生を図っていく必要があります。

1-5 流域の視点による自然環境保全

●現状と課題

- 本町は大井川の上・中流域にあたり、町内の広大な森林やダムによって多くの水資源が蓄えられ、下流域の農業用水や工業用水、生活用水などに利用されています。
- 森林には動植物の生息・生育場所や大気浄化、二酸化炭素の吸収などの機能を有しており、これらの環境は流域全体の環境資源とも位置づけられます。

2-1 人と自然とのふれあいの場の活用・創出

●現状と課題

- 自然とのふれあいの場として大井川やキャンプ場、自然観察のできるハイキングコース、紅葉スポットなどがあります。その他、身近な山や河川、森林などはふれあいの活動の場として捉えることができます。
- 美しい渓谷や温泉保養地、山岳、SL、星空など観光資源に恵まれており、本町を訪れる観光客は年間41.2万人です。
- 大井川の濁水や森林・農地の荒廃など、ふれあいの活動の場としての魅力を下げている問題も発生しています。
- アンケート結果によると、環境による地域活性化として、エコツーリズムなどへの期待が大きくなっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
インタープリター数 (体験観光のインストラクター数)	60人	H26	70人	R1	観光商工課

2-2 公園・緑地などの整備・管理

●現状と課題

- 町内の公園については、長島ダム四季彩公園、智者の丘公園のほか、児童遊園、幼稚園・保育園の遊具と広場の解放、河川敷の親水公園や広場、各地区の手づくり広場などがあります。
- アンケート結果によると、公園・緑地などの満足度は子育て世代の若年層を中心に低く、町に公園・緑地の整備や管理を望む声も多く寄せられています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
地域緑化活動団体数	28団体	H27	28団体	R1	くらし環境課

2-3 景観の保全・創造

●現状と課題

- 茶畑、大井川・寸又川、山岳、森林などは本町を代表する景観要素です。しかし、荒廃森林や放棄・遊休農地などが増え、老朽化して景観にそぐわない看板や建物も増加しています。
- アンケート結果によると、町民が大切にしたい環境として大井川や茶畑、SL・アプト式鉄道のは知る景観があげられています。また「景観の保全」などの環境施策への期待も大きくなっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
景観団体・グループ数	0団体	H27	1団体	R1	くらし環境課
景観スポット認定地点数	6地点	H27	20地点	R1	くらし環境課

2-4 歴史的・文化的遺産の保全・活用

●現状と課題

- 町内には 38 件の指定・登録文化財があるほか、寺社や鉄道関係施設、吊橋、祭りなど、歴史的・文化的遺産が数多く残っています。
- 地域の歴史を物語る貴重な建物や生活用品、民話、昔話など、多くの地域文化の保存や発掘、伝承活動が行われています。
- 歴史文化の継承者の確保が大きな課題となっており、地域のみならず町全体で支えていく必要があります。

3-1 環境の監視及び公害等の対策

●現状と課題

- 本町では近年、公害苦情はありませんが、公害防止について啓発活動を実施し、苦情に対する処理体制を整えています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
公害苦情件数	0件/年	H26	0件/年	R1	くらし環境課
生活型苦情解決率	数値なし	H26	100%	R1	くらし環境課

3-2 大気汚染・悪臭・騒音対策の推進

●現状と課題

- 本町では大井川鐵道、路線バス、町営バスが運行されています。
- アンケート結果によると、多くの町民が公共交通機関に満足しておらず、町民の移動手段は自動車が主体となっています。
- 過剰・不要な照明などの光害が少なく、空気がきれいである本町は夜空が暗く、全国的にも星の観測に適した場所です。

3-3 水質汚濁対策の推進

●現状と課題

- 大井川・下泉橋調査点の水質は、BODの値が低くきれいな水ですが、SSの値が高い年があり、水の濁りが見られます。
- 未だ生活排水の約半分が直接、河川に流れ込んでいる状況です。

4-1 ごみの減量・再資源化と適正処理

●現状と課題

- 本町のごみ総排出量は、平成19年度以降減少し、平成26年度は2,103 t/でした。町民1人あたりのごみ総排出量も県平均より少なく、ごみのリサイクル率は県平均を上回っています。
- 町民1人あたりのごみ総排出量は近年、増加傾向にあります。これは生活環境の変化に伴い、梱包ごみの量の増加が原因として考えられます。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
ゴミ排出量	2,103 t/年	H26	1,900 t/年	R1	くらし環境課
住民1人当たりゴミ排出量	728 g/人・日	H26	700 g/人・日	R1	くらし環境課
電気式生ごみ処理機 購入助成数	12台	H26	20台	R1	くらし環境課
年間資源リサイクル率 (集団回収を含む)	39.3%	H26	40.0%	R1	くらし環境課
廃食用油回収量	4,318L	H26	4,534L	R1	くらし環境課
容器包装廃棄物の排出量	89.6 t	H26	100 t	R1	くらし環境課
最終処分量(埋立量+客土)	77.3 t	H26	70 t	R1	くらし環境課

4-2 不法投棄対策・環境美化の推進

●現状と課題

- 本町では不法投棄や道路脇、河川へのごみのポイ捨てが増加する傾向にあり、町民の不法投棄やごみのポイ捨てに対する関心度、施策に対する町民・事業者の期待も大きくなっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
不法投棄確認件数	2件/年	H26	0件/年	R1	くらし環境課
監視パトロール実施回数	2回/年	H26	6回/年	R1	くらし環境課
不法投棄苦情件数	0件/年	H26	0件/年	R1	くらし環境課

4-3 エネルギーの有効利用

●現状と課題

- 本町内には5箇所の水力発電所があり、電力エネルギーの安定供給確保に努めてきました。しかし、現在では火力発電が主流となっているほか、環境への負荷の少ない太陽光や太陽熱、風力といった再生可能エネルギーの導入が進められています。
- 本町では、豊富にある森林資源を有効活用するため、木質バイオマス燃料を使用するストーブ・給湯ボイラー・風呂釜、太陽光発電、太陽熱温水器、高効率給湯器などの新エネルギー機器に対する補助を行っています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
太陽光発電、太陽熱利用施設日などに対する補助件数	約240件	H27	延べ300件	R1	くらし環境課
小規模水力発電の導入率	1基	H27	5基	R1	くらし環境課
太陽光パネルの一般家庭への設置率	118軒	H27	200軒	R1	くらし環境課
公用車の低公害車導入率	7%	H27	50%	R1	総務課
役場、小中学校などへの新エネルギー導入率	25%	H27	100%	R1	教育総務課 総務課
新エネルギーに関する勉強会回数	延べ5回	H27	延べ9回	R1	くらし環境課

4-4 地球温暖化対策の推進

●現状と課題

- 地球温暖化は、南アルプスや大井川、本町の基幹産業である川根茶の栽培などにも影響を及ぼす可能性があります。
- アンケート結果によると、地球温暖化は町民・事業者が最も関心のある環境問題であり、事業活動に伴う環境影響の種類としても二酸化炭素等の排出があげられています。
- 二酸化炭素排出量は、特に家庭・業務分野で増加が著しく、町民や事業者に対する地球温暖化対策が求められます。
- 本町の森林が1年間に吸収する二酸化炭素は、約42,000世帯が1年間に排出する二酸化炭素量と同じくらいであると推計されます。そのため、森林の保全及び適正管理を行うことにより、二酸化炭素の吸収源対策とすることが出来ます。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
地球温暖化対策活動推進員	1人	H27	3人	R1	くらし環境課
町施設温室効果ガス排出量	1,280,265kg-CO ₂	H26	953,773kg-CO ₂	R1	くらし環境課
エコアクション21認証取得事業所数	7事業所	H27	10事業所	R1	くらし環境課

5-1 環境教育・環境保全活動の推進

●現状と課題

- 地球温暖化防止や森林づくりをはじめとした環境教育・環境学習、環境保全活動が行われていますが、アンケート結果によると町民及び事業者の取組の実践率は、他の分野の取り組みと比べて低い状況です。特に若年層の環境に対する関心度や鳥羽久美の実践率が低い傾向にあります。また、町民・事業者の環境への取り組みに前向きな考えを持っているため、町民・事業者の参加。協力をより促すようなきっかけづくりの検討が必要だと考えられます。
- 環境教育を実践するための人材育成が課題となっています。

●数値目標

環境指標	【基準】		【目標】		担当課
	基準値	年度	目標値	年度	
環境保全団体の登録件数	3団体	H27	3団体	R1	くらし環境課
環境リーダーの延べ育成人数	2人	H26	10人	R1	くらし環境課
こどもエコクラブ登録団体数	2団体	H27	2団体	R1	くらし環境課

5-2 環境情報の提供・発信・共有化

●現状と課題

- 町のホームページや広報紙などで環境情報の提供を行っています。
- アンケートでも町民は環境情報の提供促進を望んでいることが分かります。
- 町内のブロードバンドの整備が完了したため、今後はその有効活用を図る必要があります。

3 エコアクション21に基づく町役場の取り組み

町の事務及び事業に伴う環境負荷について把握し、行政として自ら環境負荷を低減させるため、川根本町地球温暖化対策実行計画を策定（H29.1）しています。

（1）川根本町地球温暖化対策実行計画に基づく令和2年度の目標〔中長期目標〕

○温室効果ガス総排出量の削減目標

(基準値) H27年度					(kg-CO ₂)	
	H29年度	H30年度	R1年度	(目標年度) R2年度	削減率 (%)	削減量
1,877,256	1,839,711	1,802,166	1,745,848	1,689,530	10	187,726
	2%削減	4%削減	7%削減	10%削減		

○ゴミ排出量の削減目標

(基準値) H27年度					(kg)	
	H29年度	H30年度	R1年度	(目標年度) R2年度	削減率 (%)	削減量
10,338	10,266	10,193	10,121	10,049	2.8	289
	0.7%削減	1.4%削減	2.1%削減	2.8%削減		

○紙使用量の削減目標

(基準値) H27年度					(枚)	
	H29年度	H30年度	R1年度	(目標年度) R2年度	削減率 (%)	削減量
1,651,350	1,601,810	1,535,756	1,469,702	1,403,648	15	247,702
	3%削減	7%削減	11%削減	15%削減		

○総排水量の削減目標

(基準値) H27年度					(m)	
	H29年度	H30年度	R1年度	(目標年度) R2年度	削減率 (%)	削減量
37,810	37,659	37,508	37,356	37,205	1.6	605
	0.4%削減	0.8%削減	1.2%削減	1.6%削減		

○グリーン購入率目標

(基準値) H27年度					(%)	
	H29年度	H30年度	R1年度	(目標年度) R2年度	購入率 (%)	向上率
72	79	86	93	100	100	28
	7%向上	14%向上	21%向上	28%向上		

（2）令和2年度全体目標〔短期目標〕

- ◇ CO₂ 排出量を平成27年度対比10%削減する。その他の項目も令和2年度の目標達成に向け、段階的な削減又は向上に取り組む。
- ◇ 電力使用量については、7～9月を重点強化期間として節電に取り組む。

(3) 各課（局・施設）の取組目標

課（局・施設）名	取組目標
総務課	・紙使用量を平成27年度基準値に対し、15%削減する
企画課	・行政資料（業務説明資料）の作成、更新による事務の合理化と可視化を図り、業務の質を向上させる
情報政策課	・web会議システム運用率向上を図り、業務の効率化につなげる
農林課	・行政資料（業務参考資料）を作成することにより適切な事務、円滑な業務を図る
農林業センター	・町民の手本となる圃場管理
茶茗館	・茶茗館環境エコの実践、啓発
建設課	・CO2排出量の削減
高齢者福祉課	・エコ意識の向上を図り行動へと繋げる
健康福祉課	・業務説明資料（行政資料）の作成・更新を行い、事務の合理化と効率化を図る
桜保育園	・食育活動の充実 ・環境教育の推進
三ツ星保育園	・食育活動の充実と環境教育の推進に取り組む
くらし環境課	・緑化の推進を図り、住みよい住環境を町内に推進する
税務住民課	・マイナンバーカードの普及と利活用を促進する
会計課	・電力使用の削減 ・CO2排出量の削減
議会事務局	・資源節約意識の継続
支所管理局	・エコアクションへの取り組みの啓発
観光商工課	・年間エネルギー使用量の削減（前年度比2%減）

課（局・施設）名	取 組 目 標
奥大井音戯の郷	<ul style="list-style-type: none"> • 音戯の郷施設環境エコ活動
教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> • 川根留学生及び川根高校に入学を希望している保護者と生徒に対し、高校の魅力と併せ本町の豊かな地域資源をPRする
学校給食共同調理場	<ul style="list-style-type: none"> • 学校給食の残食量の減量
社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> • 環境教育の啓発
文化会館	<ul style="list-style-type: none"> • 施設利用者数を維持し、電気使用量を前年度より減らす • 町民の環境意識の向上
B & G海洋センター	<ul style="list-style-type: none"> • エネルギーの有効活用による施設利用者への快適な利用環境の提供

(4) 取組目標に対する実績

短期目標

令和2年度の取組結果は以下のとおりです。

○温室効果ガス総排出量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R2) 《目標値》	R2目標 削減率	R2実績 《実績値》	増減率	
1,877,256 kg-CO ₂	1,689,530 kg-CO ₂	△10%	1,773,178 kg-CO ₂	対基準年	△5.5%
				対目標年	5.0%

判定	×
----	---

○ゴミ排出量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R2) 《目標値》	R2目標 削減率	R2実績 《実績値》	増減率	
10,338kg	10,049kg	△2.8%	10,023.3kg	対基準年	△3.0%
				対目標年	0.3%

判定	×
----	---

○紙使用量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R2) 《目標値》	R2目標 削減率	R2実績 《実績値》	増減率	
1,651,350枚	1,403,648枚	△15%	1,720,200枚	対基準年	4.2%
				対目標年	22.6%

判定	×
----	---

○総排水量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R2) 《目標値》	R2目標 削減率	R2実績 《実績値》	増減率	
37,810m ³	37,205m ³	△1.6%	36,961m ³	対基準年	△2.2%
				対目標年	△0.7%

判定	○
----	---

○グリーン購入率

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (R2) 《目標値》	R2目標 向上率	R2実績 《実績値》	増減率	
72%	100%	28%	60.5%	対基準年	△11.5%
				対目標年	△39.5%

判定	×
----	---

※判定は目標年 (R2) 目標値に対するR2実績

○温室効果ガス排出量の内訳

令和2年度 エコアクション21取組実績【第4四半期まで】

【排出係数】

- ・電気:0.497
(H27年度中部電力排出係数)
- ・灯油:2.492
- ・LPG:3.002
- ・軽油:2.586
- ・A重油:2.71
- ・ガソリン:2.322

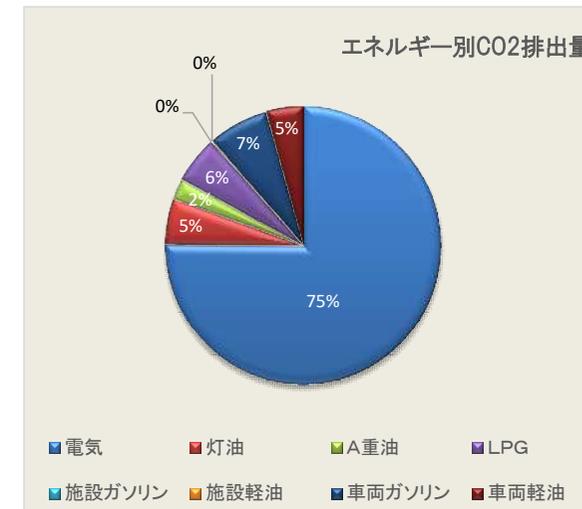
1. CO2排出量

		実績(対基準年)	5.8%削減
	目標	平成27年度対比10%削減	実績(対前年)
			2.0%削減

(1)エネルギー別

単位：kg-CO2

	電気	灯油	A重油	LPG	施設ガソリン	施設軽油	車両ガソリン	車両軽油	合計
R2	1,328,490 75.1%	94,686 5.4%	42,005 2.4%	97,203 5.5%	620 0.0%	3,414 0.2%	123,972 7.0%	77,482 4.4%	1,767,872 100.0%
R1	1,335,507 75.5%	84,246 4.8%	58,265 3.3%	101,077 5.7%	1,213 0.1%	4,407 0.2%	137,892 7.8%	81,902 4.6%	1,804,509 100.0%
H27 (基準年度)	1,340,923 71.4%	115,165 6.1%	58,536 3.1%	97,378 5.2%	709 0.0%	3,612 0.2%	175,343 9.3%	85,591 4.6%	1,877,256 100.0%
増減 (H27-R2)	△12,433 △0.9%	△20,479 △17.8%	△16,531 △28.2%	△174 △0.2%	△89 △12.5%	△198 △5.5%	△51,371 △29.3%	△8,109 △9.5%	△109,384 △5.8%
増減 (R1-R2)	△7,017 △0.5%	10,440 12.39%	△16,260 △27.9%	△3,874 △3.8%	△593 △48.9%	△993 △22.5%	△13,920 △10.1%	△4,420 △5.4%	△36,637 △2.0%



(2)各課・局別

単位：kg-CO2

	総務課	企画課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	税務住民課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R2	150,012 8.5%	1,314 0.1%	60,436 3.4%	61,674 3.5%	17,110 1.0%	148,455 8.4%	150,508 8.5%	954 0.1%	149,291 8.4%	285,311 16.1%	376,471 21.3%	123,618 7.0%	242,717 13.7%	1,767,872 100%
R1	158,882 8.5%	1,438 0.1%	59,878 3.2%	68,823 3.7%	17,675 0.9%	151,347 8.1%	177,749 9.5%	1,197 0.1%	163,107 8.7%	308,967 16.5%	338,247 18.0%	132,122 7.0%	225,077 12.0%	1,804,509 100%
H27 (基準年度)	169,347 9.0%	4,533 0.2%	29,043 1.5%	74,970 4.0%	24,117 1.3%	177,274 9.4%	176,497 9.4%	1,401 0.1%	174,269 9.3%	314,446 16.8%	325,392 17.3%	143,909 7.7%	262,059 14.0%	1,877,256 100%
増減 (H27-R2)	△19,334 △11.4%	△3,218 △71.0%	31,393 108.09%	△13,296 △17.7%	△7,008 △29.1%	△28,819 △16.3%	△25,989 △14.7%	△447 △31.9%	△24,978 △14.3%	△29,135 △9.3%	51,079 15.70%	△20,291 △14.1%	△19,342 △7.4%	△109,384 △5.8%
増減 (R1-R2)	△8,870 △5.6%	△123 △8.6%	558 0.93%	△7,148 △10.4%	△566 △3.2%	△2,892 △1.9%	△27,241 △15.3%	△243 △20.3%	△13,815 △8.5%	△23,656 △7.7%	38,223 11.30%	△8,504 △6.4%	17,640 7.84%	△36,637 △2.0%

※島田消防署川根北出張所（総務課）、自然村休養村管理センター（支所管理局）、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場（観光商工課）は電気使用量のみ対象

○電力使用量(第4四半期まで)

実績(対基準年)	0.9%削減
実績(対前年)	0.5%削減

単位:kwh

	総務課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R 2	286,491	121,601	93,425	26,910	85,411	182,466	131,400	517,411	630,933	210,174	386,797	2,673,019
R 1	283,529	120,479	108,111	28,082	83,152	191,706	134,278	548,817	609,328	228,345	351,309	2,687,136
H 2 7	287,811	58,437	112,078	36,418	86,270	190,657	128,595	549,504	607,353	245,611	395,301	2,698,035
増減 (R2/H27)	△1,320 △0.5%	63,164 108.09%	△18,653 △16.6%	△9,508 △26.1%	△859 △1.0%	△8,191 △4.3%	2,805 2.18%	△32,093 △5.8%	23,580 3.88%	△35,437 △14.4%	△8,504 △2.2%	△25,016 △0.9%
増減 (R2/R1)	2,962 1.04%	1,122 0.93%	△14,686 △13.6%	△1,172 △4.2%	2,259 2.72%	△9,240 △4.8%	△2,878 △2.1%	△31,406 △5.7%	21,605 3.55%	△18,171 △8.0%	35,488 10.10%	△14,117 △0.5%

令和2年度は地球温暖化防止実行計画中間年度と位置付けられており、CO2排出量の削減については、27年度対比10%削減を目標とし、これに与える影響が大きい電力使用量の削減にも注意して取り組む予定であったが、年度当初から、特に第1四半期においては新型コロナウイルス感染症の蔓延により、緊急事態宣言が発令され、社会活動全般にわたり、外出自粛、休業要請等活動が停滞した。自治体としての業務も、最低限の住民サービスを残し、殆どが自粛傾向となり、第1四半期だけで言えば、温室効果ガス総排出量、ごみ排出量、水使用量の項目において、対基準年を達成している。年度を終えてみれば、27年度対比5.8%の削減と目標を達成することはできなかったが、前年度の削減率からすれば、前進はしていると評価している。

この特殊な状況下で、これまでも臆気ながら感じていた、経済活動に比例し、温室効果ガス排出は増加する傾向である。人の動きが止まれば温室効果ガスの排出は特段の工夫を要さないでも抑えられることは、今回の事象からよくわかった。現代の社会活動には温室効果ガス排出はつきものであり、改めて排出抑制について考えていく必要があるのかを思い知らされた気がしている。

電力使用量については、対基準年0.9%削減、対前年0.5%削減と辛うじて基準年、前年を下回った。これは、平成30年度から開始したカーボン・マネジメント強化事業により、照明のLED化など省エネ機器の導入を進めており、この効果が大きいのではないかと分析している。

○ゴミ排出量の内訳

2. ゴミ排出量	目標					実績(対基準年)					実績(対前年)			単位: kg
	平成27年度対比2.8%削減					3.0%削減					4.2%増加			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R2	814.0	710.4	858.4	751.1	736.3	784.4	902.8	810.3	1,036.0	725.2	843.6	1,050.8	10,023.3	
R1	939.8	691.9	691.9	884.3	717.8	680.8	732.6	899.1	954.6	710.4	810.3	910.2	9,623.7	
H27	1,036.0	758.5	888.0	895.4	780.7	777.0	821.4	865.8	895.4	725.2	847.3	1,047.1	10,337.8	
比較増減 (R2/H27)	△222.0	△48.1	△29.6	△144.3	△44.4	7.4	81.4	△55.5	140.6	0.0	△3.7	3.7	△314.5	
	△21.4%	△6.3%	△3.3%	△16.1%	△5.7%	0.95%	9.91%	△6.4%	15.70%	0.00%	△0.4%	0.35%	△3.0%	
比較増減 (R2/R1)	△125.8	18.5	166.5	△133.2	18.5	103.6	170.2	△88.8	81.4	14.8	33.3	140.6	399.6	
	△13.4%	2.7%	24.1%	△15.1%	2.6%	15.2%	23.2%	△9.9%	8.5%	2.1%	4.1%	15.4%	4.2%	

ゴミ排出量については、27年度対比2.8%の削減目標に対し、3.0%の削減を達成できた。特に公立保育園2園のゴミ排出管理は積極的であり、生ゴミの水切り、リサイクルなど複合的に取り組んでくれている。庁舎においても再資源化やゴミの出し方について、工夫を積み重ねていけば更に大きな効果が期待できる。自治体としての経費削減も大いに期待できるので、徹底を図りたい。

○紙使用量の内訳

3. 紙使用量	目標					実績(対基準年)					実績(対前年)			単位: 枚
	平成27年度対比15%削減					4.2%増加					1.3%増加			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R2	226,500	100,000	157,750	150,500	128,250	102,000	156,750	124,500	118,750	115,500	136,900	202,800	1,720,200	
R1	202,850	114,400	176,850	144,350	103,900	162,100	120,400	123,500	155,350	77,450	150,504	166,003	1,697,657	
H27	132,000	141,500	165,000	111,000	126,350	154,500	121,000	104,000	138,500	144,500	132,000	181,000	1,651,350	
比較増減 (R2/H27)	94,500	△41,500	△7,250	39,500	1,900	△52,500	35,750	20,500	△19,750	△29,000	4,900	21,800	68,850	
	71.6%	△29%	△4%	35.6%	1.5%	△34%	29.5%	19.7%	△14%	△20%	3.7%	12.0%	4.2%	
比較増減 (R2/R1)	23,650	△14,400	△19,100	6,150	24,350	△60,100	36,350	1,000	△36,600	38,050	△13,604	36,797	22,543	
	11.7%	△13%	△11%	4.3%	23.4%	△37%	30.2%	0.8%	△24%	49.1%	△9%	22.2%	1.3%	

紙使用量については、27年度対比15%の削減目標に対し、4.2%の増加となった。庁舎業務でペーパーレスを感じる場面は少なく、依然として紙媒体が主力で業務は進行している。ペーパーレス化を推進する上で、活用できる端末の導入等も検討すべきと考えるが、経営面と社会的意義を天秤にかけることであり、慎重な議論が必要ではないかと考える。

○水使用量の内訳

4. 水使用量	目標	平成27年度対比1.6%削減		実績(対基準年)	2.2%削減	単位: m ³
				実績(対前年)	7.3%増加	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	
R2	5,375	14,085	6,291	11,210	36,961	
R1	4,852	14,076	5,532	9,973	34,433	
H27	7,022	15,242	5,668	9,878	37,810	
比較増減 (R2/H27)	△1,647 △23.5%	△1,157 △7.6%	623 10.99%	△9,878 △100.0%	△849 △2.2%	
比較増減 (R2/R1)	523 10.8%	9 0.1%	759 13.7%	1,237 12.4%	2,528 7.3%	

※島田消防署川根北出張所(総務課)、自然休養村管理センター(支所管理局)、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場(観光商工課)、お試し住宅(企画課)、川根高校男子寮やすが苑(教育総務課)、伝統文化伝承館(社会教育課)、クリーンビュー川根本町(くらし環境課)、若者交流センター奥流(教育総務課)の使用量は除いた数値

水使用量については、27年度対比1.6%の削減目標に対し、2.2%削減、目標年実績7.3%増加と増加に転じてしまった。年度結果で削減になっているのはやはり、第1四半期の施設休業等が大きな要因だと思われる。

○グリーン購入の内訳

5. グリーン購入	目標	平成27年度対比28%向上	実績	39.5%低下
	物品購入 全体	うち グリーン購入物品	グリーン購入率	
R2	49品	29品	60.5%	
R1	36品	22品	73.3%	
H27	83品	60品	72.0%	

共通の消耗品については、総務課にて一括購入するため、グリーン購入を意識して購入しているが、目標年実績39.5%減少と目標値には遠く届かない。グリーン購入のみならず、サステナブルという概念も取り入れつつ、資源リサイクルに寄与できる自治体を目指すべきだろうと思う。

環境活動計画と取組結果、評価及び次年度の取り組み内容

1 全庁・全施設

実施項目	評価	R3
◎電気使用量の削減	○	継続
事務室内の照明は、自然光で必要照度が得られる場合には可能な限り消灯する。	△	継続
トイレや会議室、更衣室等の使用頻度が低い場所の照明は、普段は消灯し必要な場合のみ点灯する。	○	継続
定時退庁日の取組を徹底する。	○	継続
照明機器は、可能な限りLED等の省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
ノートパソコンは、離席時や着席時でも長時間使用しない場合はふたを閉じる。1時間以上離席する場合は電源	△	継続
デスクトップパソコンは、スリープモードの開始時間を5分に設定する。1時間以上離席する場合は電源を切る。	○	継続
コピー機及びプリンターは、平日は省エネモードにし、夜間・休日は主電源を切る。	△	継続
冷暖房の設定温度は、冷房28℃、暖房20℃とする。扇風機を併用して効率的な空調管理を行う。	○	継続
18時以降は空調は使用しない。(扇風機は使用可)	○	継続
使用していない部屋の空調は停止する。	○	継続
クールビズ、ウォームビズを実施し、冷暖房の使用を抑制する。	○	継続
エレベーターの使用を控え、階段使用を励行する。	○	継続
テレビ、電気ポット、電子レンジ等の電化製品の使用は必要最低限とする。	○	継続
◎施設における燃料使用量の削減	○	継続
ボイラー機器の定期点検、適正管理を行い、燃料の損失を防ぐとともに、不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
ボイラー機器等は、可能な限り省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
◎車両における燃料使用量の削減	○	継続
車両購入の際は、環境負荷低減に配慮した製品を選定する。	○	継続
公共交通機関の利用、公用車の相乗り等により、公用車の使用削減に努める。	○	継続
アイドリングストップや低燃費運転を励行する。	○	継続
定期的に車両の整備・点検を実施し、燃費を向上させる。	○	継続
◎廃棄物の削減、リサイクルの推進	○	継続
使い捨て製品の使用や購入を抑制する。	○	継続
リターナブルボトルの製品を優先的に使用・購入する。	○	継続
丁寧な使用、修理等を行い、備品・製品の長期使用に努める。	○	継続
分別回収ボックスの設置や掲示物の掲示により、来庁者や施設利用者に対する分別を呼びかける。	○	継続
ミスブリ用紙、古封筒、付箋等、紙製品のリサイクルを徹底する。	○	継続
シュレッダーの使用は必要最小限とし、機密を保持した上でリサイクルを行う。	○	継続
両面印刷・両面コピーを徹底する。	○	継続
庁内資料は再利用紙を使用する。	○	継続
グループウェアを活用し、紙使用量を抑制する。	○	継続
資料の簡素化、作成部数の見直しにより、紙使用量を抑制する。	○	継続
コピー、印刷時には、サイズ・色・方向等を確認し、ミスプリントを防ぐ。	○	継続
保存年限を経過した文書は定期的かつ適正に処分し、リサイクルを推進する。	○	継続
廃食油を回収し、ゴミ収集車の燃料(BDF)としてリサイクルする。	○	継続
廃棄物管理票(マニフェスト)に基づき、適正な廃棄物の処分を行う。	○	継続
◎水道使用量の削減と健全な循環形成	○	継続
手洗い、洗い物等、日常の節水に心がける。	○	継続
トイレ内に掲示物を掲示し、来庁者・施設利用者へ節水の協力を呼びかける。	○	継続
バルブを調整し、水量・水圧を適正に保つ。	○	継続
水道使用量の定期点検を実施し、漏水等の不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
雨水利用設備等を設置し、雨水利用を促進する。	×	未実施
合併処理浄化槽への転換を進め、適正な排水処理を行う。	○	継続
◎事務用品購入における環境配慮	○	継続
エコマーク商品を積極的に購入する。	△	継続
消耗品や備品、建築物の新築・増改築に対し、積極的に木製品を購入・使用する。	○	継続
FSC森林認証紙、ふじのくに森の町内会間伐に寄与する紙を積極的に採用する。	○	継続
◎フロン排出抑制法	○	継続
エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検を実施する。	○	継続

【評価】○:実施(評価)できている △:一部改善の余地あり ×:実施(評価)できていない

2 各課（局・施設）

令和2年度 各課（局・施設）の取組実績及び評価

課（局・施設）名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
総務課	紙使用量を平成27年度基準値に対し、15%削減する	総務課のみではなく、紙使用量の削減を全職員に注意喚起し、職員個々に削減に努める	基準年比98.1%と1.9%の減少となっている。庁舎内会議等におけるペーパーレス化等が図られたことによる減少と考える。今後も削減に努める	年間の基準年比96.3%と3.7%の減少となった。年間を通して、ペーパーレス化や両面刷り等の改善が図られ、結果として減少することができた。次年度も、年間を通して紙の使用量を削減することに努める
企画課	行政資料（業務説明資料）の作成、更新による事務の合理化と可視化を図り、業務の質を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> 行政資料の見直し・更新 新規事務の行政資料の作成 課内での情報の共有 	作成数：29項目（全29項目中） 作成率（更新率）100%	<p>繁忙期となる年度末とあって多くの項目が作成されたことは評価できるが、もっと早い段階で業務の合間を有効に活用して資料の作成・更新がされていれば、さらに有効な取組であったと評価できる</p> <p>今後、全庁的な取組に発展させていくことで、業務の可視化・効率化、個人と組織のレベルアップ、省エネにつながり、最終的には一層の行政サービスの向上が図られると思う</p>
情報政策課	web会議システム運用率向上を図り、業務の効率化につなげる	<ul style="list-style-type: none"> 課内運用回数を増やし、使用マニュアル改訂及び課内共有の徹底を図る。 他課の使用率向上のために、使用マニュアルを改善し、事前に運用に係る説明会を実施する。 各課の使用推進を図る。（課内会議等で積極的な利用推進） 	<ul style="list-style-type: none"> 各課ネット系PCにzoom整備 zoom 有料アカウントを購入。 ※各課に利用ライセンスを配布予定 	<p>○ビデオ会議の運用向上を図るため環境整備に努める傍ら、職員に対する研修を随時行ってきた。Zoomに限って言えば各課の運用実績も多く、職員も積極的に利用していると感じる。改善点はZoom運用マニュアルを最新版に改訂することである。ビデオ会議システムは常にアップデートされているため、各職員の理解を促すために、マニュアルの改善は継続して行っていくべき課題といえる。</p> <p>○次年度、ビデオ会議システム（zoom）の有料アカウント取得に伴い、運用回数も増加することが見込まれる。情報政策課内でzoom運用マニュアルを共有し、課員全員で庁内からの問い合わせに対応できるように努めたいと考える。</p>

令和2年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
農林課	行政資料(業務参考資料)を作成することにより適切な事務、円滑な業務を図る	<ul style="list-style-type: none"> 行政資料、新規作成 課内供覧し情報共有する 業務実績、内容等を見直し更新 	<p>後半は、課内職員への資料作成への促進、声掛けが減ったため、進捗率が伸びなかった。</p> <p>行政資料の作成は、次年度以降も継続する予定。事前に「いつまでに、何件作成」と実施計画をたて進めていきたい。</p>	<p>行政資料を作成し課内供覧及び情報共有することで、円滑な業務を図ることができた。</p> <p>(是正点)</p> <p>具体的な目標数値を上げなかった為、実績の評価が出しにくかった。</p> <p>引き続き次年度以降も「行政資料の作成」を実施する予定であるため、具体的数値をだし、より円滑な業務を図れるよう努めていきたい。</p> <p>(例:計画数値目標:行政資料30件作成)</p>
農林業センター	町民の手本となる圃場管理	防除基準の遵守と適期防除の推進	<ul style="list-style-type: none"> 防除作業手順の確認、及び問題点や改善点等について、事前に職員間で話し合った。 3月に防除作業を行った。作業前に健康を チェックし、作業に当たっては適正な着衣を徹底した。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年に比べ雨が多く天候に左右されることもあったが、年間を通じてほぼ計画通りの防除を行うことができた。 作業に当たり、職員で注意点を確認し合い、適正な着衣での作業を心掛けることができた。 夏季の作業では、各自適宜休憩を取り、体調に留意して同様の作業を行いたい。
茶茗館	茶茗館環境エコの実践、啓発	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅利用者及びイベント来場者へのアイドリングストップの啓発 盛夏に涼に親しむイベントの実施 	<p>アイドリングストップの掲示物を駐車場に掲示した。</p> <p>夏季のイベントを変更し、3月に実施した。</p>	<p>コロナウイルス感染予防により来館者数が前年の4割減となった。</p> <p>アイドリングストップの効果は出来ていると思われる。</p> <p>夏季イベントは、ウイルス感染状況により次年度の計画としたい。</p>
建設課	CO2排出量の削減	<ol style="list-style-type: none"> 両面印刷、紙の再利用を行い紙資源の節約をする。 昼休み、退席時は、パソコンの電源を切る。 	<ol style="list-style-type: none"> 紙資源の節約①用紙の給紙枚数 3,500枚 ②廃棄用紙枚数 2,850枚 <ol style="list-style-type: none"> PC電源の管理 (実施率85%) 	<p>今年度から取り組んだ活動のため、前年度等の比較ができないが、用紙の節約、再資源の取り組みができた。</p> <p>年度中半になり、課員においても両面コピーや図面(A1サイズ等)ミクスプリントをA4サイズに切り、メモ紙、手差しトレイに再利用する取り組みが見られた。</p> <p>PCの電源管理についても、スリープモードに設定したり、長時間の退席時、昼休み等は積極的電源を切ることができた。</p> <p>来年度からは今年度の数値を基準にして紙の減量に努めていきたい。</p>

令和2年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
高齢者福祉課	エコ意識の向上を図り行動へと繋げる	関係する施設を含め、電気使用量及び燃料費の削減に努める。 課内のゴミ排出量の削減に努める。 外出支援サービス運行方法の一部変更による利用者数・運行時間・使用燃料の変化、及び利用者の満足度調査	冬期に入り、暖房設備に使用するエネルギーの使用量の増加がみられた。不要な箇所や不要な時間帯の使用を見直し、節約に努めるように施設へも協力を求める。	コロナウイルス感染防止対策における事業の実施方法の変更等により、エネルギーの消費量に減少がみられた。関係する施設のエネルギー使用が大半を占めているため、施設へのエコ意識の啓発が必要と感じた。また、課内においても日々の業務の中で「エコアクション」の取り組みを意識していくように努めたい。
健康福祉課	業務説明資料(行政資料)の作成・更新を行い、事務の合理化と効率化を図る	・行政資料の作成 ・課内での情報共有	作成された資料は、紙媒体と電子データで管理しており、課員で情報共有している。 課内への取り組み周知を行ったが、新規作成に繋がらなかった。 ・作成:5件	・年間を通して、健康福祉課のEA21の取組みを行うことができた。活動内容を『業務説明資料の作成』とし、課内への取り組み周知と作成依頼に重点をおいた。作成された業務説明資料数は、昨年度14件だったが、今年度は、5件のみだった。 ・資料作成にあたり、課員の負担が大きいことも考慮し、次年度の活動については、再度検討する。
桜保育園	食育活動の充実 環境教育の推進	・園児と栽培やクッキング、土壌作りに取り組む ・園から排出するごみの減量	ゴミ袋…211 資源紙…182.9kg 乾燥生ごみ量…79.92kg ポップコーンを調理して味わう。遅くなってしまったが、ジャガイモを植付たり、夏の花を植えた。	ゴミ袋の使用が多く、草取りで出た物は乾燥させて出してもなかなか減らす事が出来ず、支所の方に協力してもらい捨てるようにした事で、草に関してはゴミ袋の使用を減らすことが出来た。今年度は、乳児の子が多くオムツのゴミが多く出た。乳児の数によってゴミの量も変わってくるので、そうした事も含めて来年度はゴミの袋の使用量の目標を立てるようにしていきたい。資源紙との分別も、出来たりできなかったりなので、子どもと一緒に繰り返し伝えて行く様にしたい。また、まだ使用できる紙を捨ててある事も多いので、保育士も物を大事にするように、子どもと一緒にしていきたい。給食の生ごみを乾燥させて堆肥作りをしたり、落ち葉を集めて腐葉土を作ったりすることを子どもと一緒にやる事で、子ども達の中にも、こうするといい土が出来るという事が分かっている。子ども達も進んで腐葉土作りをしたり、畑作りの時には「あれ入れないと(乾燥生ごみ)」という言葉も聞かれるようになってきているので、来年度も引き続き、子どもと一緒に活動をしていきたい。

令和2年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
三ツ星保育園	食育活動の充実と環境教育の推進に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・園児と共に栽培、クッキング、土壌作りを行い、食育を推進する。 ・環境にやさしい生活を送るために、ゴミ分別の必要性を伝えていく。 	<p>ゴミ袋数・・・248個 資源紙・・・240.8kg・乾燥生ごみ量69.17kg</p> <p>来年度に向け、ジャガイモを植えた。ブロッコリーを収穫し、茹でて食べた。パンジーやチューリップが、キレイに咲いている。</p>	<p>今年度は、コロナウイルス感染防止予防のため、クッキング等の活動がほとんどできなかったものの、クラスで育てた野菜に関しては、子ども達が出来た事、保育士が行う事を考え、自分たちで育てた野菜を味わう体験は出来たと思う。コロナ感染症の影響が、来年度も続くと思われるが、出来る事を工夫しやっていきたいと思う。</p> <p>生ごみ処理機の故障は直したものの、以前使用していたようには使えなくなったので、乾燥生ごみ量は減るが、出来た分を利用し、土壌作りを行っていきたい。また、ゴミ削減、資源分別等、職員も意識して行なっている。意識の持続をしていき、園児たちにも大切さを伝えていくようにしたい。次年度は、ゴミ袋の数の目標を具体的に決め、削減に努めていきたい。</p>
くらし環境課	緑化の推進を図り、住みよい住環境を町内に推進する	<ul style="list-style-type: none"> ・役場庁舎(本庁舎・総合支所)における緑化の展示 ・緑化を活用した省エネルギー生活の普及啓もう 	<p>秋から始まった四季折々の寄せ植えは、2月末納入の春の寄せ植えで納入を完了した。冬季の花の管理については、経験値を積むことができて来年度へ向けて自信は持てたが、対外的にPRが全くできず、事業としてうまくいっているとは決して言える状況ではなかった。如何に来庁者の興味をそそめるかが次年度の課題である</p>	<p>2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年度初頭から緊急事態宣言、生活様式も一変した在宅勤務、外出自粛といわれる「おうち時間」が増え、人々の趣向もこれまでとは違った形態になってきている。「緑化」については視覚的、体験的にも身近な環境の中、屋外での活動となり、花の美しさ、香しさなど、「いやし」を求める今の時代にもマッチしていると考えており、子供たちの情操教育、栽培を通じた喜びや、植物を愛おむ心の醸成など環境に訴える部分よりも、人々の心の浄化にこそいいのではなにかと考える。</p> <p>また、各地区の花の会組織が高齢化等を理由に規模縮小しており、今後は各家庭での緑化を通じ、町内の緑化を訴えていく方向にシフトすることも必要と考えており、自宅を豊やかにすること町を豊やかなまちづくりに寄与できると考えているので、今年度で培った内容を次年度に向け発展させ、緑化推進の遂行を図りたいと考えている。</p>
税務住民課	マイナンバーカードの普及と利活用を促進する	<ul style="list-style-type: none"> ・税と社会保障の一体改革の一環により、スタートしたマイナンバー制度。安全でより身近な行政サービスの提供を目的としたマイナンバーカードの普及と利活用を住民にも周知し、年度末までに30%程度の普及率を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な出張申請、未申請者への案内通知により、2月から3月にかけて取得者数が増えており、効果的な取得推進を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な取得推進により、当初の目標であった取得率30%を達成することができた。 ・健康保険証としての運用は延期となったが、マイナンバーカードを保有することの重要性、利便性が向上していくことによりは無いため、引き続き、国、県及び関係機関の動向を注視し、普及に努めていく。

令和2年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
会計課	<ul style="list-style-type: none"> ・電力使用の削減 ・CO2排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日・水曜日・金曜日に定時退庁徹底 ・始業前、昼休みの照明消灯徹底 ・保存用ファイルの再利用 	<p>1月は繁忙期であったが、ノ残業デーにはなるべく残業しないことを意識してメリハリのある働き方を心がけた。100%ではないが、ほぼ達成出来た。なお、始業前・昼休みの照明消灯、ファイルの再利用については、常に意識しているため100%達成し、資源削減に努める事が出来た。</p>	<p>①ノ残業デーについては、繁忙期で達成できない時期もあったが、常に定時退庁の意識を持ち概ね達成できた。来年度も引き続き業務の効率化を図り、時間管理意識をさらに高めたい。</p> <p>②始業前昼休みの照明消灯については課員全員が意識し、幹事や委員が不在時にも取り組むことができた。来年度も引き続き取り組みたい。</p> <p>③毎月歳入・歳出伝票をつづるために約5冊のファイルを使用している。保存期間を超えた破棄処分するファイルを再利用して資源削減することができた。来年度も引き続き取り組みたい。</p>
議会事務局	資源節約意識の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・紙資源節約(メール活用、用紙の再利用等) ・水資源節約(一議員一日一個の茶碗の使用) ・節電(休憩時間の消灯、夏季軽装化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の会議が重なる日には、各議員が同じ茶碗を持って移動し、一議員一日一個の茶碗を使用している。休憩時間の消灯も含めて、各議員がエコを意識して、出来ることを実践している。 ・9月の決算特別委員会では、委員長の声掛けにより、ほとんどの議員がマイボトルを持参し、水資源節約につながった。今後の継続方法については、議長とも協議し検討する。 ・マイボトルの持参について、数人の議員が継続しているが、第3四半期には連日の会議がなく、会議開催日数も多くないため、議長とも協議し、全議員への徹底は行わなかった。3月の予算特別委員会でのマイボトル持参については、委員長も含め協議する。 ・3月の予算特別委員会には、ほぼ全議員がマイボトルを持参し、水資源の節約につながった。 	<p>メール活用、用紙の再利用、会議資料のファイル配架、一議員一日一個の茶碗使用、休憩時間の消灯など、計画した内容はおおむね実施ができ、資源節約の意識が議員にも定着している。会議での湯茶については、会議が何日も続く予算・決算特別委員会には、マイボトルを持参し、水資源等の節約にもつながった。次年度は議員選挙が予定されている。新しい体制になっても、引き続き議員のエコへの意識を高め、継続して資源節約を図っていききたい。</p>
支所管理局	エコアクションへの取り組みの啓発	ゴミ減量化への啓発活動の定期的な実施と率先した減量活動の実施。	<p>コロナ対策による活動自粛により、全体としてエネルギー使用量が減っているが、燃料費の削減が大きく、電気料、紙資源などは基準年並みとなった。</p>	<p>コロナ対策により会議などはオンライン開催が当たり前となり出張などは少なくなっている。施設の一時休館など燃料費の削減がエネルギー使用量を削減している。しかしながら経済対策などを進める中で、徐々にエネルギー使用量も増えていくと考えられる。</p>

令和2年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
観光商工課	年間エネルギー使用量の削減 (前年度比2%)	・年間を通じた省エネルギー啓発 ・夏季・冬季におけるエネルギー使用見直し	前年度と比較し、ガソリンの使用量が減少した。新型コロナウイルスの影響により、使用頻度が減ったことが理由と考えられる。その他のエネルギーも若干減少しているため、翌年度も引き続き削減に努めていく。	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために各施設で長期にわたり休業措置がとられていた。このため、前年度と比較してほとんどすべてのエネルギーで減少していることがみられる。4月以降再開する施設があるため、再度増加していくことが見込まれるが、できる範囲で削減ができるよう努めていく。
奥大井音戯の郷	音戯の郷施設環境エコ活動	施設利用者及び職員へのエコ活動啓発 グリーンカーテンの設置	◆施設利用者及び職員への節電・節水啓発 ◆空調機使用時間短縮活動 【使用時間目安】9:30～16:00(繁忙日を除く) ◆ゴーヤのグリーンカーテン設置による空調機使用削減	千頭駅周辺でのイベント開催もなく、また大井川鉄道の運休期間も長引いたことから、来館者数は低調な1年となりました。それに伴い、エネルギー使用量も抑えられた1年となりました。次年度以降に来館者数が回復してくるとエネルギー使用量は増加すると予想します。引き続きエネルギー使用量の抑制を行います。
教育総務課	川根留学生及び川根高校に入学を希望している保護者と生徒に対し、高校の魅力と併せて本町の豊かな地域資源をPRする。	本町の豊かな自然環境や森林資源等の情報発信を行う。	地元の中高生には、やりたいことをやるための基盤となる自然環境を守ることを考えた行動の必要性と、町外から来る川根高校新入生に対しては、当町の自然環境の良さ、守っていく一員になったことを中心にPRしたことで、自覚をもって行動してもらえたと感じた。	自然環境が良いことが当たり前になってしまい、気づかなくなってしまうためにも、再確認させる場面設定は必要と思う。 そこで今回は、誰かがやってくれるのではなく、自分が気づいてやる考えで行動できるよう、直接対話や、地域の重要な一員であることを感じてもらう内容でPRすることができ、生徒は、少しではあるが、環境を守る意識が高まったと感じた。
学校給食共同調理場	学校給食の残食量の減量	給食の残食量の減量を目指すとともに 残食の適正な処理を行う。	主食残量 169kg おかず残量 420kg	各学校により残量に偏りはあるが、引き続き食の指導等を実施し、残量削減に努めたい。

令和2年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
社会教育課	環境教育の啓発	地域で取り組む生涯学習事業など「環境保護」をテーマとした学習機会の開催(5回以上)	<p>【地域で取り組む生涯学習事業】 各地域で実施中(全事業を終了し、実績報告書が提出された)20地区</p> <p>【ふるさと発見団】 11月22日(日)川根探検隊 アドベンチャーハイキング 小学生11人、川高生7人参加 2/13実施 参加児童数 12人</p> <p>【放課後子供教室】 1月～3月 毎週水曜 延べ1176人</p>	「地域で取り組む生涯学習事業」や「ふるさと発見団」、でそれぞれ環境学習をメニューに取り入れて事業を実施した。次年度は「海の子山の子交流教室」も実施の方向で進めて、参加者を増やす計画をたて実施していきたい。
文化会館	<p>①施設利用者数を維持し、電気使用量を前年度より減らす。</p> <p>②町民の環境意識の向上。</p>	<p>①文化会館事業の促進とTPOに合わせた照明・空調利用を心がけ、節電・省エネに努める。</p> <p>②環境教育目的のイベント開催。</p>	前年度より利用者数は増加しているが、3月は検針期間外にホールを利用するイベントを実施しているため、利用者数に比べると電気使用量が少ない。	<p>・コロナウイルスの流行により予定していたイベントや貸館がキャンセルになったため、前年度よりも電気使用量が減少している月が多かった。</p> <p>・H29年度から電力量デマンド監視システムを導入し、最大消費電力量を常に監視し節電を実施している。結果、基本料金が下がりコスト削減に成功していると思われる。会館利用者が増えると施設利用頻度が増え、エアコンや照明など使用時間が増加し結果、電気使用量も増加するため利用者と電気使用量は相反する関係にあるが、今後も電力を消費する時間帯をずらして電力需要ピーク時における電力消費を抑える努力を継続したい。</p> <p>・館内で利用しているエアコン等の機器を省エネ機器に更新することで消費量を減らすことができるが、更新するためには多くの予算が必要となる。</p>
B&G海洋センター	エネルギーの有効活用による施設利用者への快適な利用環境の提供	施設で使用する電気や水道、灯油などのエネルギー使用の削減を図りながら、施設利用者への快適な利用環境を提供する。	新型コロナウイルスの影響により、教室はできなかったこと、節約に努めたため減少している。	新型コロナウイルスの影響により、体育館での教室利用が少なかったが、昼間の個人利用があったため、一部で使用量が増加した。その他は、節約に努めている。来年度、教室等が通常通り行えたときにも節約に努めるようにする。

3 小中学校

令和2年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
本川根小学校	<p>やまびこ自然教室での「アマゴの放流」</p> <p>学校を彩る花を植えよう</p>	<p>学区を流れる大井川に親しみをもたせるとともに、川の環境保全や命の大切さを学ぶ。</p> <p>1. 大井川漁協本川根支部の方のお話 2. アマゴの観察、放流</p> <p>① ライオンズクラブの方から、花の苗や球根をいただいた。5年生は、アネモネ、ランタンキュラス、フリージアをプランターに植えた。</p> <p>② 3月の卒業式、4月の入学式に向けて、4年生が、ピオラとパンジーの苗をプランターに植える活動を行った。</p>	<p>・アマゴの放流活動は、今年で5年目になる。例年、八木キャンプ場周辺で放流を行っているが、今年度はコロナウイルス感染症予防対策として、スクールバスを利用せず徒歩での移動が可能な千頭温泉前河原で放流を行った。</p> <p>・今年度は例年より半年遅れて放流を行ったため、大きく成長したアマゴの形や模様を観察することができた。</p> <p>・児童はアマゴの放流を通して、地域の自然の良さ、生き物の命の大切さを実感することができた。</p> <p>・10月末に3年生はアマゴの卵を受精させて有精卵にする様子を見学する。そして、来年度アマゴの放流を体験することで生物の成長の過程を目の当たりにし、命の大切さを実感させたい。</p> <p>① 5年生一人一人が、非常に手際よく、優しい気持ちで一生涯懸命に取り組むことができた。その後、昼休みには低学年を中心に多くの児童が水やりに進んで取り組んだ。</p> <p>② 児童は意欲的かつ協力的に活動していた。その後、自分たちの教室のベランダにプランターを移動させ、毎日当番が水やりを行ったり、枯れてしまった花を積極的に摘んだり丁寧な世話をする姿が見られた。</p> <p>今後も植物を世話するということを通して、生き物への優しさを培っていきたい。</p>

令和2年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中川根第一小学校	植物に慣れ親しもう	<p>1、2年生が育てるアサガオ・野菜と4年生が育てるゴーヤ・ヘチマの種をベランダで育て、各学年で協力して植物の世話をを行った。</p> <p>活動内容 (1) アサガオ・ゴーヤ・ヘチマの種まき、野菜の苗植え (2) 朝、帰りの水やり</p>	<p>毎日水やりを自分たちで行うことで、植物の成長を実感するとともに植物に対して愛着がわいてきている児童の姿が見受けられた。</p> <p>1・2年生は自分たちが世話をし、成長を観察することで愛着をもてた様子であった。野菜の収穫の際には、喜びも感じられ、植物への関心が高まった様子を感じた。</p> <p>4年生は、ヘチマとゴーヤの2種類を育てることによって成長の違いや類似しているところに興味をもって観察することができた。また、毎朝登校するとすぐに成長を確認したり、水やりをしたりする姿が見られた。</p> <p>今後は、卒業式に向け、他の植物も育てる予定。その際、花をきれいに保つため水やりや枯れてしまった花を摘むなどの活動を通して、生き物への優しさを培っていきたい。</p> <p>夏からの継続で低学年は、さつまいもを育て収穫をした。子どもたちは野菜を育てたいという強い思いから、休み時間には進んで水やりや草取りをするなど積極的に世話をする姿が見られた。また、収穫をしたときは、育てた植物を大切に扱っていた様子から、自らの手で育てることの意味を感じとっている様子であった。</p> <p>3月の卒業式に向け、会場を彩る花をプランターに植える作業を1年生から5年生で行った。学年に関係なく作業をすることで、上級生が下級生に教えながら協力する姿が見られた。さらに、朝や休み時間に進んで水かけをしたり、枯れた花を摘んだり子どもたち自ら大切に育てる様子が見られた。</p> <p>これからも緑活動を通して、自らの手で植物を育てたり、環境を整えたりすることで、全校児童に「自分たちの活動」という意識をもたせたい。</p>

令和2年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中川根南部小学校	<p>全校緑の少年団活動「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう」「運動場をきれいにしよう」</p> <p>全校緑の少年団活動「校庭をきれいにしよう」「花いっぱい为学校にしよう」</p>	<p>「緑のカーテンで夏を涼しく過ごそう」 ○緑のカーテン(アサガオ、ゴーヤ)を育てることを通して、植物によって人の生活が豊かになったり、生活しやすくなったりすることを実感する。 ○運動場がコロナや長雨の影響で、草でいっぱいになってしまった状況を見て、自分達の手で運動場をきれいにしようという意識が生まれ、自発的に草取りが始まった。</p> <p>「校庭をきれいにしよう」 ○学校のシンボルツリーである樺が落葉の時期を迎えたとき、4年生が朝の活動の時間に落ち葉を集め校庭をきれいにしようとしていると、1、2年生が自然と手伝いを始めた。その落ち葉をつかって、1、2年生は生活科の時間に「焼き芋パーティー」を開いた。</p> <p>「花いっぱい为学校にしよう」 ○毎年恒例になっている卒業式、入学式を彩る花をプランターと花壇に植える活動を行った。今年もパンジーやビオラの花苗を植えた</p>	<p>緑の少年団の活動は、始め4年生と1年生が中心となり進めた。4年生は、校舎前の花壇にアサガオ、ゴーヤをまいて水かけや草取りの世話をし、1年生は、アサガオ、夏野菜、さつまいもの世話をした。その中で、陰に隠れて知らない間に育っていた実を見つけて歓声を上げたり、報告に走って行ったりする姿を見かけた。今年はずり実があまりなく、さみしい収穫量だったが、自分の育てた植物の成長を喜ぶ姿は変わらなかった。今年、コロナや気象の異常で、例年計画した活動ができなかった。その時、校長先生の運動場の整備をする姿を見て、子ども達が自然と手伝いをするようになった。校長先生が用事でいらっしやらない時も自分達でやるところを決めて作業をしていた。この姿を見て、これまでの、そして日頃の学校をきれいにしよう、自然を大切にして豊かな生活をしようという心根が育っていると感じた。</p> <p>今年、コロナ感染の予防のため様々な行事や活動が縮小された。緑の活動もいつもの年より小規模で行うことが多かった。そんな中、緑の活動を細々と行っていると、1、2年生が落ち葉拾いに興味をもって手伝うようになった。箒で掃いたり、手袋をした手で集めたりする1、2年生の姿を見て「焼き芋をするのも楽しいよ」というアドバイスを聞き、子供たちと担任が焼き芋パーティーを開くことになった。当初は予定していなかったことだったが、1、2年生の落ち葉集めが次の楽しい活動を生み出すことになった。</p> <p>卒業式、入学式の式場を飾る花を今年も植えることになった。土づくりから植え付け、そして日々の世話まで継続することは、他の委員会の仕事を持つ子供たちにとってはなかなか大変なことだった。短い時間でも世話を続けていると、あるとき「花がたくさん咲いてきたね」「始めはあまり思わなかったけど続けているとパンジーやビオラが大きくなっていることが分かって、楽しくなってきたよ」という声が聞こえてきた。小さなおともでも継続することの大切さを感じる事が出来た時間だった。</p>

令和2年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
本川根中学校	<p>本中生のさらなる育成を目指して ～環境・福祉・自然体験の面から～</p> <p>「心がきれい」・「学校がきれい」を目指して ～清掃活動や福祉の授業等を通して～</p>	<p>奉仕作業や花の球根の植栽、福祉体験、自然体験などを通じて、環境・福祉教育の大切さを学び、川根本町や町外の自然や文化について知ることを目的とする。</p> <p>(1)環境保全・環境教育 ①奉仕作業 ②球根の植栽(環境委員会)</p> <p>(2)福祉教育 福祉講座(2年生)</p> <p>(3)自然体験 井川湖・井川ダム見学、廃線ウォークラリー、町並みの散策、井川湖船上体験、接岨湖でのEポート体験(1年生)</p> <p>清掃活動や資源回収、花の球根の植栽、高齢者疑似体験等を通して、環境・福祉教育の大切さを学ぶことを目的とする。</p> <p>(1)環境保全・環境教育 ①資源回収 ②球根の植栽(環境委員会) ③全校草取り</p> <p>(2)福祉教育 高齢者疑似体験(1年生 家庭科)</p>	<p>本校生徒が環境・福祉・自然体験等について学ぶことができるように、上記の活動を行った。</p> <p>全校生徒が本校の環境保全のために、草取りを行った。自分たちの手できれいな学校づくりに貢献しようとする事ができた。また、本校の環境委員会の生徒が、より美しい学校を目指して、花の球根を植えた。それにより、きれいな花がたくさん見られるようになった。</p> <p>2年生が福祉について学習するために、社会福祉協議会の方々を招いて、車いす体験や視覚・聴覚障がい者の疑似体験を行った。体験を通して、高齢者の多い川根本町の福祉事情や福祉教育の重要性を感じることができた。</p> <p>1年生は井川の町の歴史や自然などに関する体験型学習を行った。また、接岨湖でのEポート体験を通して、本川根地区の自然の魅力や美しさを感じることができた。</p> <p>これからも本校生徒の育成のために、あらゆる方法や手立てを講じてい本校生徒が環境・福祉教育の重要性について学ぶことができるように、下半期では以下の活動を行った。</p> <p>3年生を送る会や卒業式、来年度の入学式のために、環境委員会が主体となってパンジーの球根の植栽や水やり等を行った。また、全校清掃の一環として、清掃の時間に全校草取りを行った。これらの活動を通して、自分たちの手できれいな学校づくりに貢献していく経験ができた。</p> <p>1年生の家庭科の授業で、高齢者疑似体験学習を行った。町の社会福祉協議会の方を講師としてお招きし、講話をいただいたり、歩行体験を行ったりした。この授業を通して、高齢者が抱える苦勞を理解し、高齢者の多い川根本町の福祉事情や福祉教育の大切さを学ぶことができた。</p> <p>来年度以降においても、本校生徒の育成のために様々な方法や手立てを講じ、環境・福祉教育を促進させていきたい。</p>

令和2年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中川根中学校	『あすなるDay』『エコキャップ集め』 『節水・節電を求めるステッカー』	<p>毎週火曜日の帰りの会で翌日のあすなるDayについて周知し、毎週水曜日の朝福祉委員が牛乳パックとアルミ缶の回収を行った。回収により得られたお金で、町内の福祉施設に必要な物を寄付するつもりである。</p> <p>また、各学級に設置されているエコキャップ回収Boxに集められるエコキャップも、役場を通じてワクチンへと変え、貧困に苦しむ海外の子供達に使ってもらおうと考えている。</p> <p>さらに、今年度は節電・節水を意識するステッカーのデザインを生徒から募集し、水道の蛇口や照明のスイッチ付近に掲示した。</p> <p>11月以降はあすなるDayの曜日を固定しないことで、集まったらいつでもこまめに持ってくるように周知し、福祉委員が牛乳パックとアルミ缶の回収を行った。回収により得られたお金で、町内の福祉施設に必要な物を寄付するつもりである。</p> <p>また、各学級に設置されているエコキャップ回収Boxに集められるエコキャップも、役場を通じてワクチンへと変え、貧困に苦しむ海外の子供達に使ってもらおうと考えている。</p> <p>今年度の前期に設置した節電・節水を意識するステッカーは引き続き水道の蛇口や照明のスイッチ付近に掲示した。</p>	<p>あすなるDayやエコキャップ回収のポスターを作成して呼びかけを行うことを通して、委員自身も意欲的に取り組むようになっている。生徒達もこの活動に協力しようと各家庭から集めて持ってきてくれている。</p> <p>節電・節水のステッカーのデザイン募集も生徒達の意欲的な参加が見られた。学校中の水道や照明のスイッチに貼ってある様々なステッカーのデザインを探し出すことを楽しむ姿も見られ、節電や節水の意識の向上につながっている。</p> <p>あすなるDayやエコキャップ回収のポスターを作成して呼びかけを行うことを通して、委員自身も意欲的に取り組むようになっている。生徒達もこの活動に協力しようと各家庭から集めて持ってきてくれている。</p> <p>2月中旬には『あすなる強化旬間』(旬間―特に区切られた10日間の意味)と称し、普段よりも回収に力を入れる取組を行った。委員の呼びかけやポスターの成果で普段よりも多く回収することができた。</p> <p>節電・節水のステッカーが目につく場所にあることで、こまめに節電や節水を行う姿が前期に比べて多く見られた。今後も掲示を継続して意欲向上に努めたい。</p>

(5) 目標年度に向けた取組

○温室効果ガス総排出量の削減目標

(kg-CO2)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
1,877,256	1,689,530	1,595,667	1,501,804	1,407,942	25	469,314
	10%削減	15%削減	20%削減	25%削減		

○ゴミ排出量の削減目標

(kg)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
10,338	10,049	9,976	9,903	9,831	4.9	507
	2.8%削減	3.5%削減	4.2%削減	4.9%削減		

○紙使用量の削減目標

(枚)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
1,651,350	1,403,648	1,337,593	1,271,539	1,205,485	27	445,865
	15%削減	19%削減	23%削減	27%削減		

○総排水量の削減目標

(m)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	削減率 (%)	削減量
37,810	37,205	37,053	36,902	36,751	2.8	1,059
	1.6%削減	2.0%削減	2.4%削減	2.8%削減		

○グリーン購入率目標

(%)

(基準値) H27年度	R2年度	R3年度	R4年度	(目標年度) R5年度	購入率 (%)	向上率
72	79	86	93	100	100	28
	7%向上	14%向上	21%向上	28%向上		

4 令和2年度の活動の紹介

(1) 緑のカーテン実施・啓発

夏季の暑さ対策と電力使用量の低下を目的として、庁舎に緑のカーテンを設置して 16 年目になります。今年も朝顔で高さ 5m、幅 10m の緑のカーテンを作りました。また、この緑のカーテン普及促進のため、設置希望のあった地区と学校に土やプランター、ネット、種の配付も行いました。



(2) 川根本町の自然について学ぶ（ふるさと発見団、海の子・山の子交流教室）

川根本町の自然を知るための取り組みとして、ふるさと発見団では接岨峡にてハイキングを行いました。

植物や鳥、昆虫を探しながら散策し、自分たちの町にどのような自然があるのかを勉強しました。

実際に自然に触れることで、自分たちがどのような環境の中で育っているのか、どんな関係をもって自然と生きているのかについて、学ぶことができました。町の自然について知るよい機会になりました。



(3) 地域緑化支援事業の実施

9月と11月に町内の花の会を対象として、地域緑化を促進するため球根や種などの資材を配布しました。

町内で活動している花の会より配付希望を受け、秋植えの球根や種、培養土、肥料などを、計17団体に配付しました。

春には町内各地で色とりどりのきれいな花が咲き、見る人の目を楽しませました。



(4) 大井川を学ぶ視察会

大井川の河川環境と水利用の現状を知ってもらうための視察会を実施しました。

今年度は、大井川の新たな水問題として取り上げられるリニア中央新幹線の導水路トンネル出口予定地の榎島付近の現状を視察し、事業への理解を深めました。

視察域	開催日	参加者数
≪源流域≫ 井川ダム～榎島付近（静岡市）	令和2年12月11日	15名



(5) 大井川を知る総合学習「大井川出前講座」

子どもたちに大井川の現状とその環境について広く知ってもらうことを目的とした大井川出前講座を、流域の小学校 20 校で開催しました。

児童たちは、大井川の歴史をたどり、変化する大井川の役割と現状を学びました。

開催校	開催日	対象者
牧之原市立 細江小学校	令和2年10月2日	4年生 67人
掛川市立 土方小学校	令和2年10月5日	4年生 28人
掛川市立 中央小学校	令和2年10月6日	4年生 96人
牧之原市立 坂部小学校	令和2年10月7日	4年生 26人
掛川市立 千浜小学校	令和2年10月8日	4年生 23人
掛川市立 中小学校	令和2年10月8日	4年生 21人
掛川市立 大淵小学校	令和2年10月9日	4年生 25人
菊川市立 小笠南小学校	令和2年10月9日	4年生 29人
吉田町立 中央小学校	令和2年10月13日	4年生 108人
掛川市立 西山口小学校	令和2年10月14日	4年生 101人
川根本町立 中川根第一小学校	令和2年10月15日	4年生 8人
御前崎市立 浜岡北小学校	令和2年10月19日	4年生 25人
菊川市立 堀之内小学校	令和2年10月21日	4年生 71人
島田市立 川根小学校	令和2年10月27日	4年生 35人
		5年生 18人
		6年生 26人
川根本町立 本川根小学校	令和2年10月28日	4年生 11人
掛川市立 上内田小学校	令和2年10月29日	4年生 21人
掛川市立 曾我小学校	令和2年11月6日	4年生 32人
菊川市立 小笠北小学校	令和2年11月10日	4年生 65人
焼津市立 黒石小学校	令和2年11月18日	4年生 61人
焼津市立 黒石小学校	令和2年11月19日	4年生 60人
計	21回	957人



5 町が実施する町民向け補助事業

川根本町では、環境負荷の少ないエネルギーの利用、資源有効利用、地球温暖化防止、町民との協働による自然に癒されるふるさとづくりの推進等を目的に、以下の補助金制度を実施しています。

(1) 川根本町クリーンエネルギー機器導入促進事業費補助金

太陽光発電システム等を設置する場合の購入費用及び設置費用を助成します。

【令和2年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
太陽光発電システム	4	400 千円
太陽熱温水器	7	350 千円
エコキュート	8	400 千円
潜熱回収型	5	150 千円
リチウムイオン蓄電池	10	1,000 千円
計	34	2,300 千円

(2) 川根本町^{もり}森林のエネルギー導入促進事業費補助金

薪などの木質燃料のストーブ・給湯ボイラー・風呂釜を設置する場合の購入費用及び設置費用を助成します。

【令和2年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
薪ストーブ	4	169 千円

(3) 川根本町生ごみ減量促進事業費補助金

生ごみ処理機等の購入費用を助成します。

【令和2年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
乾燥式	4	138 千円
容器式		千円
バイオ式		千円
計		千円

(4) 川根本町合併処理浄化槽設置整備事業費補助金

合併処理浄化槽の設置費用を助成します。

【令和2年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
合併処理浄化槽	8	3,470 千円

(5) 川根本町古紙等資源集団回収奨励金

古紙類、ビン類、缶類の回収を行った団体（自治会、小中学校、子供会、PTA 等）に対し、奨励金を交付します。

【令和2年度の実績】

交付件数	参加団体数	回収量	奨励金交付額
20	9	80,114.0 kg	401 千円

(6) 川根本町防犯灯整備事業費補助金

防犯灯整備事業を実施する区自治会に対し、補助金を交付します。

【令和2年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
新設（支柱新設）	2 基	374 千円
新設（電柱共架）	0 基	
交換	23 基	

(7) 川根本町少量危険物貯蔵施設防油堤整備事業費補助金

少量危険物貯蔵施設防油堤を設置する方に対し、補助金を交付します。

【令和2年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
防油堤整備	0	一千円

6 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

令和2年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、法令違反や事故、異常事態の発生は報告されておられません。

また、過去3年間にわたって違反・訴訟もありません。

遵守状況チェック日 令和3年2月28日

○関係法令

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
環境基本法	・環境関連施策全般	全庁	○
循環型社会形成推進法	・循環型社会の構築	全庁	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	・町施設における温暖化対策 ・住民、事業所への働きかけ	全庁	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	・町施設における物品購入、使用時の環境配慮	総務課 全課	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	・庁舎におけるごみの分別、再利用等 ・分別収集の啓発	くらし環境課 総務課 他	○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律（容器包装リサイクル法）	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	・特定家電製品の廃棄、リサイクル券の購入	総務課 特定家電使用課	○
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）	・食物残渣等のリサイクル	給食センター	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	・公共事業における建設廃棄物の再資源化と再利用の促進 ・地域における資材の再資源化の促進	建設課 関係課	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	・公用車の廃車時における環境配慮 ・購入・更新・車検時のリサイクル券の購入	関係課	○
水質汚濁防止法	・庁舎・施設からの排水の基準遵守	総務課 各施設	○
大気汚染防止法	・ボイラ等のばい煙発生装置の使用 ・ボイラ及び冷温水発生機の使用	海洋センター	○

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
騒音規制法	・公共事業における騒音への配慮	建設課 関係課	○
振動規制法	・公共事業における振動への配慮	建設課 関係課	○
悪臭防止法	・地域における悪臭の防止	くらし環境課	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	・エネルギー使用量の把握 ・省エネの推進	総務課 くらし環境課 全庁	○
浄化槽法	・適正な浄化槽の管理	総務課 関係施設	○
消防法	・石油製品の大量貯蔵	海洋センター	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別措置法	・PCBの適正な管理及び処理	総務課 教育総務課	○
フロン排出抑制法	・エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検の実施	総務課 関係施設	○

7 代表者による評価と見直しの結果

本町でのエコアクションの取り組みも、平成 19 年度以来 14 年目となりました。地域をはじめ、地球環境への負荷を極力減らし、持続可能な環境保全を目標として取り組みを続け、職員の中では最早当然の取り組みとして認知されてきております。また、平成 30 年度には、川根本町景観計画を策定しました。本町は南アルプスユネスコエコパークの緩衝地域として、後世に残すべき素晴らしい景観と、文化的な生活の営みを両立させる地域として位置づけられ、計画では町が目指す景観の姿を「人の営みにより育む、自然と調和した魅力と活力のある景観」としています。

目標の実現には、環境への配慮も益々重要となります。政府から「2050 カーボンニュートラル」も掲げられ、今後、温室効果ガス排出削減についてはますますその取組が加速していくはずで、美しく広大な森林を資産として有する我が町が率先して取り組み、我が町から世界に発信し、世界的なムーブメントに繋がられる重要な役割を担うものだと思っております。

令和 2 年度は本町の地球温暖化対策実行計画の中間年度に位置付けられており、基準年度から 5 年と取り組みの検証をする年度でありました。定めた目標を達成できた項目ありましたが、最も重要視する温室効果ガス総排出量は、残念ながら定めた目標の 55% の達成率となりました。本町の地球温暖化対策実行計画では温室効果ガスを 2030 年度に 2015 年度から 40% 削減を目標としております。中間年度の結果を踏まえ、職員の英知を結集して目標達成に向け、取り組んでまいり所存です。

本町の取り組みが、日本国内にとどまらず、世界に誇れる姿となるよう、今後も地域の人々の暮らしと産業及び経済を支える、自然を守る番人として、町の財産でもある豊かな自然を守りつつ活かしながら、“自然と共生する豊かなまち 川根本町”を実現するよう、今後もまちづくりを進めてまいります。

令和 3 年 5 月 31 日
川根本町長 鈴木 敏夫